

Institute for Language Education
Aichi University, Nagoya

Boken News

No. 23 July 2010



アメリカ・ケーブジラード “Missouri Wall of Fame”:
元はミシシッピ川の氾濫による洪水を防ぐために建てられた洪水壁。現在はミズーリ州・ケーブ
ジラードにゆかりのある人々の絵が描かれている。本学アメリカセミナーで訪れる場所である。

CONTENTS

- ・「The accused」と「被告人」の距離
(緑 大輔) 2
- ・英文経済紙 (The Nikkei Weekly) で中国のいまを読む
(川村 亜樹) 4
- ・学習者の知識構造と語彙習得
(古荘 智子) 5
- ・岩崎川のカワセミ
(矢田 博士) 8
- ・いろいろ大変だったアメリカ地質学会
～オレゴン州ポートランド～
(古川 邦之) 12
- ・英語の辞書について(3) —コロケーション辞典—
(北尾 泰幸) 14
- ・D.H.ロレンスの動物の描写について(その4)
(山田 晶子) 19
- ・アメリカセミナー紹介
—サウスイーストミズーリ州立大学—
(北尾 泰幸) 20

- 海外最新事情 24
 - ・アメリカの結婚事情
(林 姿穂) 24
 - ・フランスの学校事情—偏見と現実—
(中尾 浩) 26
- 外国語コンテスト 29
 - ・英語部門
 - ・ドイツ語部門
 - ・フランス語部門
 - ・中国語部門 (法・経営)
 - ・中国語部門 (現中)
 - ・韓国・朝鮮語部門
 - ・日本語部門
- 外国語コンテスト入賞作 33
 - ・英語部門
 - ・中国語部門
 - ・韓国・朝鮮語部門
 - ・日本語部門

「The accused」と「被告人」の距離

法学部
緑 大輔

1. はじめに

最近、仕事でアメリカの捜査法の概説書を翻訳している。私は翻訳をするのが苦手である。いや、嫌いである。翻訳をしていると、ある英単語を日本語にした瞬間に、内容や議論の射程が変わってしまうかのように感じるからである。そして私は苦悶しては、遅滞している翻訳に取り組む（そして現実から逃避して、この原稿を書いている）。その苦悶ぶりを書き連ねようかと思ったが、私の愚痴で紙面を埋めると、編集に携わる方々の労力や紙資源を浪費することになる上に、私も後悔しそうである。

そこで、ここでは、ある単語の意味が英語と日本語との間で違うことが「モノの見方」の違いにどのようにかわるのか、という問題を具体例で考えたい。以下は、英語の「the accused」と日本語の「被告人」という言葉の意味をめぐるお話である。

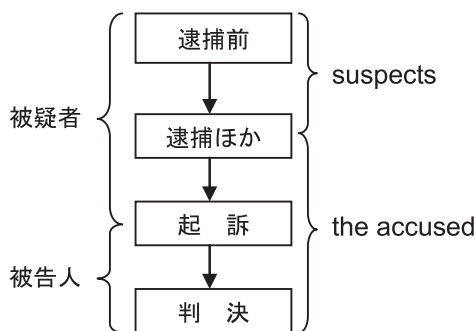
2. 言葉の意味の違い

犯罪捜査や刑事裁判の手続について定めた法律に「刑事訴訟法」という法律がある。この法律では、犯罪をしたと疑われている人について2つの呼び方をする。犯罪をやったと疑われている人は、捜査機関が裁判の準備のために証拠を収集している段階では「被疑者」と呼び、検察官が裁判所に裁判の開始を求めて訴え出る起訴（公訴提起）をした段階では「被告人」と呼ぶ。よくニュースで「逮捕」「勾留（マスコミ用語では拘留）」という言葉を目にすることがあるだろうが、「逮捕」「勾留」とは捜査・公判段階で被疑者・被告人の身体

を拘束することを指している。ここで押さえておきたい点は、日本の法律では、犯罪をやったと疑われている人の呼称が、逮捕されたかどうか（身体を拘束されたかどうか）ではなく、検察官が裁判の開始を求めた段階で変わるという点である。

しかし、アメリカでは異なる。アメリカでは、犯罪をやったと疑われている人について、逮捕の前の段階ではしばしば「a suspect」と呼ぶのに対し、まだ起訴されていなくても逮捕された段階で「the accused」という名称に変わる。日本語に訳すときには、「accuse」という単語がしばしば「起訴する、訴追する」と訳されるところから、「the accused」は「起訴された人」という意味としてとらえられ、「被告人」と訳するのが良さそうに思えるが、厳密に考えるとややズレがある。ポイントは、「the accused」という言葉が「逮捕された段階」の人を指す点である（なお、厳密には「defendant」が日本語の「被告人」にもっとも近い）。

整理すると、日本の「被告人」は起訴された人だけを指すのに対し、アメリカの「the accused」は逮捕された人と起訴された人を指しており、日本の「被疑者」という概念の一部を取り込んでいる形になるというわけである（図参照）。



3. 違いをもたらすもの、違いがもたらすもの

言葉の意味の違いは、しばしばその背景にある価値観の違いに影響されている場合があるものである。この「被告人」と「the accused」の違いは、どのようなモノの見方の違いが作用しているのだろうか。

私は、「国家と一般市民との間で、本格的に刑罰の適用をめぐる対決姿勢に入るのはどの段階

か」ということへの理解の違いがここに表れているのではないか、と思っている。日本は起訴された段階から本格的な争いになると考えているのに対し、アメリカでは逮捕された段階から本格的な争いが既に始まっている、と考えているのではないか。このモノの見方の違いは、法の解釈にも影響を与えていると思う。

第一に、憲法によって国費による弁護人の選任が義務づけられる時点が異なる。良いことかどうかは別にして、日本の裁判例や多数説によれば、起訴される前まで、資力がない人に国費で弁護人を付する憲法上の義務はないとされている。裁判員裁判が導入されて、重大事件のみ逮捕時点から国費で弁護人を付することができるようになったが、これは憲法の要求ではないという理解が多数である。弁護人を国費で付すことが憲法上求められるのは、起訴された後—「被告人」になってからだと理解されているのである。これに対して、アメリカでは逮捕・勾留時点から弁護人を付すことが要求されている。しかも、逮捕・勾留されている人—「the accused」が取調べを受ける際に弁護人の立会いを望む場合、弁護人が立ち会わなければ憲法違反となる。弁護人は、一般市民がまさに国家との対決に入ったときに、補助者として付されるものであろう。その「対決」のスタート時点をめぐる認識の違いが先鋭的に表れている一例だと思われる。

第二に、保釈 (bail) の可否が異なる。保釈とは、身体を拘束されている人が保釈保証金という金銭を裁判所に納めて、釈放されることを指す。逃亡したり証拠を隠滅したりすると、保釈保証金は没収されるが、裁判が終わるまでそのようなことが起きなければ返還される。この保釈がどの時点から認められるかも、日本とアメリカでは異なる。日本では、起訴された後の「被告人」にならなければ、保釈は法律上許されない。これに対して、アメリカでは逮捕された後であれば、「the accused」にあたり、保釈が許される。もともと、保釈は裁判の準備のために設けられている側面もある（釈放された方が当然弁護人と打合せをしやすく、防御の準備をしやすい）。ここにも、身体を拘束された時点既に「国家との対決」が始まったと考えるアメリカの認識を見いだすことができ

よう。

第三に、犯罪をやったという嫌疑の程度も、異なる。日本では、逮捕、勾留、起訴と順を追って犯罪の嫌疑が高まっていくことが通常だと認識されているだろう。実務上、捜査機関は一定程度の嫌疑を得たら逮捕・勾留を行って取調べを徹底して行い、起訴する段階では「有罪を確実に獲得できる」くらいの固い嫌疑を得ようとする。しかし、アメリカでは逮捕でも起訴でも求められる嫌疑は同じ程度であり、「相当な理由 (probable cause)」があれば足りる、と考えられている。ポイントは、逮捕の嫌疑も起訴の嫌疑も同程度であり、「逮捕してから嫌疑を固めて起訴をする」という発想が強くはない点である。このことは、「逮捕できるということは起訴できるくらいの嫌疑が既にある」ということを意味している。アメリカで基礎になっている考え方は、逮捕・勾留は裁判に出頭させる手段に過ぎず、必ずしも取調べの手段ではないというものであろう。実際、アメリカでは逮捕後の取調べがあっさりしたものである場合が多く、取調べ時間も日本よりもはるかに短い。ここに、既に逮捕の時点で「the accused」になった一般市民は、捜査機関との「対決」に入っている以上、身体を拘束されていても一方的に取り調べを受ける存在ではない、という発想を読み取れよう。

4. 終わりに

以上のように、「被告人」と「the accused」の意味の相違が、「いつから国家と対決する段階に入ったか」という見方の相違とかかわって、手続の違いをもたらしめている。ややきつい表現をすれば、用語法の相違は、国家が身体を拘束するということを「国家による個人への宣戦布告」と受け取るか否かをめぐる価値観の相違なのであろう。そしてこのことは裏返せば、国家が身体を拘束するという作用を、拘束された個人にとって重大な問題だと社会がとらえているか否かの相違だともいえるように思う。拘束された本人にとって身体拘束はシリアスな問題だろうと考える私としては、アメリカの考え方に合理性を感じるのだが、さてどうなのだろうか。英語の講義をしっかりと聴いた後に、考えてみて欲しい。

英文経済紙 (The Nikkei Weekly) で中国のいまを読む

現代中国学部
川村 亜樹

はじめに

就職活動中の大学生のなかで日本経済新聞を読んでいる人は多いだろう。社会人としての目標を見出すために、また、就活でライバルの一步先をいくために、就活時期からといわず、より早い時期から最新の経済情報に日常的に触れるようにしておきたい。その際、情報媒体についての知識は重要である。そこで今回は、日本経済新聞社が発行する *The Nikkei Weekly* という週刊英文経済紙を紹介し、その活用法の一つとして最近の中国関連記事に目を向けてみたい。

本誌の記事の多くは、日本経済新聞、日経産業新聞、日経MJ、日経ヴェリタス、4誌から厳選されて英訳されたものであり、英語でのビジネスコミュニケーションのための話題探しに役立ち、英語の検定・資格試験対策にも効果的である。また近年、多くの大学の授業教材として取り上げられはじめ、今後さらなる普及が予想される。つまり、英語で経済紙を読むことが普通の大学生活の一部である時代がやってきたのである。

1. ビジネス英語教材としての *The Nikkei Weekly*

The Nikkei Weekly を教材に用いた経営学部の「ビジネス英語」では、毎週、各記事のタイトルをチェックして多様な分野のニュースを一通り把握し、そのなかで受講生が読みたい記事をピックアップしてランキングを作成し、ランキング上位の記事から読んでいる。そして、英語表現を効率的に覚えるトレーニングと、記事全体を要約して意見を述べるトレーニングをおこなっている。特に、この新聞には“Japan Business Seminar”とい

うコーナーがあり、ビジネスシーンで日本人と欧米人が円滑にコミュニケーションをするための方法なども提案されており、授業ではそうした記事について活発に意見が交わされている。リアルタイムの情報を踏まえての議論ができ、研究テーマを発見するきっかけとして、あるいは、就活の集団ディスカッションの準備トレーニングとしても役立つだろう。

また、現代中国学部では「実用オフィス英語」のクラスで *The Nikkei Weekly* を読み、中国関連の記事を毎週扱っている。現代中国学部には、中国語の運用能力と、中国に関する専門的知識をアピールポイントとして就活する学生が多いだろうが、面接では最新の中国の状況について質問されることや、中国語とともに英語の運用能力を問われる場合もあるだろう。はっきりいえば TOEIC の点数である。したがって、TOEIC の得点アップが期待でき、日常的に実用的な英語に触れるかたちでリアルタイムの中国の情報を入手できる本誌は就活やその後のビジネスライフに向けた理想的な情報媒体といえる。

2. *The Nikkei Weekly* で読むいまの中国

本誌には ASIA 欄があり、毎週中国関連の記事が掲載されている。読み方の具体例として3つの視点を提案したい。

(1) 中国企業による日本企業の買収

4月12日付けの“BYD swerves into solar market”という記事は、15年前にバッテリーメーカーとして誕生し、現在中国6位の自動車メーカーとなったBYDという企業が、次に太陽光のマーケットに進出すると報じている。その関連として、この企業による群馬県の金型工場の買収の話が取り上げられている。施設にBYDのサインが掲げられることはなく、正式なセレモニーもなく、ただ中国から一人の重役がやってきたとのことである。中国の経済発展に関するニュースは連日耳にするが、それが日本にどのように影響を与えているかは中国研究を専門とせずとも関心の高いテーマではないだろうか。いまや中国は安価な労働力を提供する世界経済の頼みの綱であるだけでなく、日本企業を買収する国でもある。その買収の際の細

やかな配慮は、毒ギョーザや盗作などによって形成されたステレオタイプに亀裂を生じさせる別の中国の顔を見せてくれる。中国企業による企業買収の方法を分析することで、もう一つの中国像を探してみてもはどうだろうか。

(2) 米中関係

4月5日付けの“Yuan revaluation draws fire”によると、米中が対立する具体的な問題として、オバマ大統領とダライ・ラマの会談、台湾への武器販売、グーグル撤退のあと、元の切り上げが再び注目されているとのことである。4月12日付けの“China, U.S. tussle over currency”も、通貨である元がヴェトナムで定着しつつあるというエピソードをとおして、世界経済における元の影響力の増大に対してアメリカが神経質になっていると説明している。その一方、4月19日付けの“Beijing may be ready to let yuan strengthen”では、核セキュリティサミットでオバマ大統領が胡主席に軽く頭を下げて握手をしている写真が掲載され、中国の通貨政策が紹介されている。

9.11 とリーマンショックを経て超大国アメリカの威信が揺らぐ一方で、北京オリンピックと上海万博を足掛かりとして経済発展する中国を目の当たりにして、世界第2位の経済大国日本は米中双方の様子をうかがいながらの国家運営を迫られている。この課題においては、中国からみたアメリカ、アメリカからみた中国、両方の視点がますます必要になるだろう。したがって、中国研究をしている学生にはぜひとも英語に磨きをかけ、アメリカの状況にも目を向けてもらいたい。

(3) 中国、台湾のポップカルチャーと日本文化

3月8日付けの“China wants to be major movie power”によると、中国の政府と映画製作会社は自国で制作された作品の販売拡大に働きかけており、日本の配給会社や観客の関心を引き付けた例として『レッド クリフ』が取り上げられている。その一方、4月5日付けの“Japanophiles thriving in Taiwan”は、台湾の若者たちがマンガやゲームをとおして日本の歌舞伎に興味を抱いていると伝えている。

The Nikkei Weekly の一つの特長は、経済ニュー

スを読みながら、文化的教養も身に付く点である。中国文化と接触することで日本文化がどのような影響を受けるのか。日本の伝統文化は台湾社会においていかに変化していくのか。こうした点を身近なポップカルチャーをとおして考えてみるのもよいだろう。

おわりに

1ヶ月間の記事を見るだけでも、英語で中国関連の有益な情報を入手できることがわかってもらえたはずである。世界はすでに上海万博以後のグローバル社会を想像/創造しようとしている。未来の構築はいま現在をどう読むかにかかっている。クオリティの高い情報媒体を活用して、日本の地域性を意識したグローバル社会の形成にぜひ参画してもらいたい。

学習者の知識構造と語彙習得

語学教育研究室
古荘 智子

1. はじめに

外国語学習において目標言語の語彙力が重要な要素の一つであることは、多くの研究者によって論じられている。しかし、語彙の習得法に関する研究者の見解はさまざまである。本小論は、まず英語学習者に求められている語彙力の指標を簡単に紹介し、次に語彙習得と知識構造についてまとめる。

2. TOEIC スコアによる英語力の指標

文部科学省は2003年3月、「英語を使える日本人の為の戦略構想」を掲げ、英語力の指標をTOEICのスコアで具体的に示唆している。それ

によると、日本人大学生に求められている英語力の指標はTOEICスコア500点、企業が新入社員に求める英語力の指標もTOEICスコア500点と示されている。周知のようにTOEICは英語を母国語としない学習者が、英語圏で日常生活をする際にどの程度のコミュニケーション能力があるか、を測るための試験であり、特殊語彙や専門知識などを測るための試験ではない。したがって、TOEICの中で使用されている語彙は日常的な会話や文章の中で使用される語彙に限定される。中條とGenung (2005) は、対象となる英文テキストの95%の語彙を網羅するのに必要な数の単語をBNC (British National Corpus) 高頻度語リストの上位から数えることで語彙水準を測定した。その結果、TOEICは3,714語の語彙水準であることを指摘している。

3. 英語の語彙力とは

英語の語彙力を語彙サイズから論じた研究としてよく知られているのは、NationやShumittらである。Nationは、自律的学習者が必要とする最低限の語彙力について、口語的話し言葉に関する研究の中で約2,000語の語彙が95%以上のカバー率を提供できる (2001/2005, p.130) と述べている。また、代表的な上級学習者用辞書 (例えばOxford Advanced Learner Dictionary, Longman Dictionary Of Contemporary Englishなど) は、定義用語彙 (見出し語を定義するために用いる語彙) を約2,000語に制限していることから、自律的学習者が必要とする最低限の語彙力は2,000語であると考えられる。

語彙力には知識として有している単語の数という量的問題だけでなく、一つひとつの単語をいかに正しく認識しているかという質の問題も含まれている。Gass & Selinker (2008) は、語彙力の量と質の問題を、幅 (breadth) と深さ (depth) という用語で表現している。語彙の深さとは、単なる一つひとつの単語の意味の知識にとどまらずに、他の単語との意味的な関係をも含むものと考えられている。Read (2004) は、この語彙の知識の深さの定義についてさまざまな考察を繰り広げているが、そのなかでは、意味の正確さや、包括的な単語の知識、そして他の単語との意味的な

関係を含むネットワークの知識についても言及されている。

4. 概念のネットワーク

Collins, A. M., & Loftus, E. F. (1975) は、知識構造を活性化拡散モデルによって示した。Collins & Loftusによると、意味的に関係のある「記憶項目」は相互にリンクで結ばれており、ある項目が活性化されると、結びつきの強さに応じて、他の項目も活性化されることにより、さまざまな文脈の中で起きる事柄を効率よく処理することができる、と説明している。知識としての語彙は個人によって異なっているため、人間一人ひとりが持っている概念のネットワークも異なっている。Aitchison (1987) は、「bird」ということばを使って、鳥のプロトタイプから周辺への広がりを図で示し、それによるとアメリカ人にとって最も「鳥」らしい鳥は「こまどり」であると示されている。しかし、日本で生まれ育った我々には「こまどり」は「鳥」ということばから真っ先に連想されるほど、馴染みがある鳥とは言えない。むしろ、「すずめ」、「鳩」、「つばめ」などの方がはるかに連想されやすい鳥だといえよう。このことは、アメリカ人と日本人の生活環境や文化的背景の違いによって、特定のことばから強く連想されるイメージが異なることを示しているといえる。

5. 言語連想法

知識構造を知る方法の一つとして、言語連想がある。言語連想とは、ある単語を刺激語として提示し、その単語から想起されたことばを書き出す方法で、心理学研究においては、従来から知識の実態を調査するひとつの方法論として用いられてきた。古荘 (2009) は、英語の語彙を対象に、特定の対象群の知識がどのようなもので構成されているのかを明らかにする1つの試みとして、ITを専門に学ぶ情報科学部の学生および院生 (IT群, 220名) と、情報科学系以外の学部生 (統制群, 184名) を対象に、言語連想を用いた調査を試みた。

『最新パソコン・IT用語辞典』(2009)によると、ITで使用されている語彙数は7,000語とも8,000語ともいわれている。その中で、英語の語

彙とスペルが同じ語彙（英語語彙をそのまま IT 用の特殊語彙として使用している）の数を調査した結果、およそ 3,000 語になり、それらの語彙を頻度レベル別に分類を行った結果、約半数が高頻度語に属することがわかった。これらの語彙は英語本来の語意とは全く異なった語意で使われているもの（Opera, cookie, bug など）と、元の語意を知っていれば IT 用語としての意味の推測が可能であるもの（board, surfing, memory など）がある。それらの語彙を英語語彙より先に IT 用語として認識し、ひとまとまりの語彙に関する知識構造を構築した場合、英語語彙における知識構造とは全く異なったものになりうると推測でき、それが英語を学習する際にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにすることにより、学習者の知識構造を使って、新しい英語教授法を開発することが可能である。調査方法の詳細ここでは省略するが、分析の結果から IT 群は統制群に比べ、IT 関連以外の一般的な連想の反応が少ないことが示された。また、統制群の連想の方向は、IT 関連だけではなく、それ以外の方向へと拡散していく傾向が明らかになり、一方で、IT 群の連想の方向は、IT 関連用語に絞られ、拡散が抑制される傾向が示された。言い換えると、IT 群の学生は、英語の学習中に、IT 用語として非常に馴染み深い単語に遭遇した場合、英語の学習が抑制されてしまう可能性が示唆されるとともに、IT 用語として知識がある既知語を利用した英語教授法の可能性が提案された。

6. むすび

このように概念のネットワークの考え方を言語習得の教育現場に応用してみると、単に対象言語の語彙量の問題だけではなく、学習者が既に保持している知識の偏りや、認知の問題をも含んでいると考えられる。新しい情報を学習するということは、学習者がすでにもっている知識にそれらの情報を付け加えることに他ならない。そして、そのような学習が効率的に、かつ正確になされるためには、新しい情報をどのようなことに関連づけて、教育現場で提示するかが重要な鍵となる。英語語彙の習得を、学習者の専門科目や興味関心のある別の知識体系と全く切り離して考えるのでは

なく、日頃から馴染みがあり、深い知識と豊富な語彙によって広がる既存の語彙ネットワークをうまく利用することによって、英語のためだけの語彙習得という枠を超えた包括的で、学習者にとって本当に必要かつ使える英語力を、より効果的に効率よく身につけていくことができよう。

引用文献

- Aitchison, J. (1987). *Words in the Mind*. Oxford: Blackwell Publishing.
- 中條清美、Genung, M. (2005). 『British National Corpusを活用した TOEIC テストの分析 —語彙活用水準の定量化と特徴単語の抽出』 TOEIC research report, No.3. The Institute for International Business Communication.
- Collins, A.M., & Loftus, E.F. (1975). A spreading-activation theory of semantic processing. *Psychological Review*, 82, 407-428.
- 古荘智子. (2009). IT 用語の知識が英語の学習に及ぼす影響. 『言語文化研究』, 16, 1-15.
- Gass, S. M., & Selinker, L. (2008). *Second Language Acquisition: An introductory course*. (3rd ed.). New York: Taylor & Francis Routledge.
- (財)国際コミュニケーション協会. (2007). 『TOEIC テスト活用実態報告2007年度版』 . <http://www.toeic.or.jp>
- ネーション, I.S.P. (2005). 『英語教師の為のボキャブラリーラーニング』 (吉田晴世、三根浩訳) 東京: 松柏社.
- Nation, I.S.P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 大島邦夫、堀本勝久. (2009). 『最新パソコン・IT 用語辞典』 . 東京: 技術評論社.
- Read, J. (2004). Plumbing the depths: how should the construct of vocabulary knowledge be defined? In P. Bogaards and B. Laufer (Eds.), *Vocabulary in a Second Language*, 209-227. Amsterdam: John Benjamins.

岩崎川のカワセミ

経営学部

矢田 博士

一、はじめに

筆者の住む愛知県日進市は名古屋市の東隣りに位置し、市を南北に二分するかのように天白川が東から西へと流れ、市の中心部あたりで北東から流れてくる岩崎川と合流する。その天白川と岩崎川とが合流するあたりは、護岸工事も最小限に押さえられ、川本来の自然な姿を比較的和めており、川原や堤の斜面には葦やススキが生い茂り、カモやサギ、ヨシキリやセキレイなど、様々な野鳥の姿を目にすることができる。また、堤の上はちょっとしたウォーキングコースとなっており、このような川沿いの景色を楽しみながら歩くことができる。筆者もまた、四十も半ばとなり腹周りの脂肪もそろそろ気になりだしたので、新たな年を迎えたのを機に、思い立ってその道を散歩コースに選び歩くことにした。

歩き始めてからおよそ二ヶ月経った二月の下旬のこと、いつものように散歩に出かけ、岩崎川が天白川と合流するすこし手前にまで差し掛かったとき、太陽の光を浴びコバルトブルーの翼を輝かせながら、川の流れの中程を、水面すれすれに下流から上流へ真っ直ぐに、そしてあっという間に飛び去っていく一羽の鳥の姿を目にした。カワセミだった。こんなところにもいるのかと思いながら、なおも進んでいくと、今度は別のカワセミが川面に迫り出した枯木の枝に留まっていた。しばらく立ち止まって観察していると、魚の姿を見つけたのか、川面めがけて急降下し、水中にもぐったかと思うと、すぐさま飛び出してきて、またもとの枯木の枝に留まった。残念ながら魚は捕れな

かったようだ。さらに二度ほど同じ行為を繰り返したものの、やはり魚を捕らえることはできず、とうとう諦めたのか、他の場所へ飛び去っていった。後から知ったことだが、カワセミは単に水浴びをするときにも同様の行為をするらしく、あるいはあのときのカワセミも単に水浴びをしていただけだったのかもしれない。

ところで中国の古典詩歌では、カワセミはどのように詠われているのであろうか。カワセミを詠った詩については、これまでことさらに取り上げて論じられたことはなかったように思われるので、これを機に確かめてみることにする。

二、カワセミの生態および習性

まずはその前に、カワセミの生態および習性について整理しておきたい。カワセミは一夫一妻で、非繁殖期には単独で行動するが、三月から八月にかけての繁殖期には、雄と雌とが共同で水辺の崖に嘴を使って50cmから100cmほどの深い巣穴を掘り、そこで卵を産み、雛を育てる。抱卵と育雛もまた雌雄が交替で行うとのことである。主に川魚を餌とし、獲物を見つけると、水中に飛び込んで捕食する。捕らえた魚は、それを嘴に横にくわえたまま枝や杭に強く叩きつけて殺し、一息に頭から呑み込むのだそうだ。⁽¹⁾ この点については、明の李時珍の『本草綱目』巻四十七「禽部一・魚狗」の集解にも、「藏器曰く」として、

此即翠鳥也。穴土爲窠、大者名翠鳥、小者名魚狗。青色似翠、其尾可爲飾、亦有斑白者。俱能水上取魚。

《魚狗というのは翠鳥のことである。土に穴を掘って巣を作り、大きな種を翠鳥と呼び、小さな種を魚狗と呼んでいる。色は青緑色の玉のようで、その尾羽根は飾りとするのに相応しく、中には白い斑点模様があるものもいる。いずれの種も水上で魚を捕ることができる。》

とあり、続けて「時珍曰く」として、以下のようにある。

魚狗处处水涯有之。大如燕、喙尖而長、足紅而短。背毛翠色帶碧、翅毛黑色揚青、可飾女人首物。亦翡翠之類。

《魚狗は至るところの水辺にいる。燕ほどの大きさで、くちばしは尖っていて長く、足は赤色で短い。背中の毛は青緑色で深緑色を帯びており、翼の毛は黒色で青色に輝き、女性の髪飾りとするのに相応しい。これもまた翡翠の類である。》

さらに「魚狗」の項の末尾に「附録」として翡翠を取りあげ、「時珍曰く」として以下のように言う。

爾雅謂之鷗。出交広南越諸地、飲啄水側、穴居生子。亦巢于木。似魚狗稍大。

『爾雅』には、この鳥を鷗と言う。南方の交州・広州・南越の諸地に棲息し、水辺で水を飲み魚を啄み、土手に穴を掘って巢を作り子を生む。また木に巢を作るものもいる。魚狗に似ていてやや大きい。》

『新註校定 國譯本草綱目（全十五冊）』（鈴木真海訳、木村康一ほか校定、春陽堂書店、一九七六年、第十一冊一九六頁）の「魚狗」の項の木村重氏の注によれば、中国のカワセミは日本のものと同種であるとのことで、さらに森岡弘之氏の補注によれば、中国には九種のカワセミが分布し、華北にはカワセミ・ヤマセミ、ヤマショウビンの三種が、他は華南に生息するとのことである。また、『世界鳥類大図鑑』（バードライフ・インターナショナル監修、山岸哲日本語版監修、ネコ・パブリッシング、二〇〇九年）によれば、カワセミ類の河川にすむ種は土手に長いトンネルを掘るが、他種は樹洞に営巣するとのことで、李時珍が言う通り、樹木に巢を作る種もあるようだ。

三、魚を捕らえるカワセミ

さて、カワセミの生態・習性の中で最も特徴的なものを挙げるとすれば、やはり水中めがけて急降下し魚を捕らえる捕食行為が第一に挙げられるのではないだろうか。唐宋の詩人たちも、やはり

カワセミのそのような行為が印象的であったのであろう、好んでそれを詩に詠っている。⁽²⁾例えば、唐の錢起の五言古詩に「藍田溪雜詠」と題する二十二首の連作の詩があり、その第十七首目の「銜魚翠鳥 [魚を銜む翠鳥]」と題する詩に以下のようにあるのは、その代表的な例と言えよう。

有意蓮葉間 意有り 蓮葉の間に
瞥然下高樹 瞥然として高樹より下る
擘波得潜魚 波を擘きて潜魚を得れば
一点翠光去 一点 翠光 去る

《蓮の葉の間を泳ぐ魚に意識を集中し、ちらっと水面に目をやったかと思うと高い木から急降下。波を裂いて水中に潜む魚を捕らえると、あっという間に青緑色の翼を輝かせながら去っていった。》

また、唐の李紳の七言古詩「翡翠塢 [翡翠の塢]」の一節にも、

翡翠飛飛繞蓮塢 翡翠 飛び飛びて 蓮塢
を繞り
一啄嘉魚一鳴舞 一は嘉魚を啄みて 一は
鳴き舞う

《雌雄のカワセミが飛び交い、蓮池の土手のあたりをめぐり、一羽は魚をくわえ、一羽は鳴きながら舞っている。》

とある。おそらく雌の気を惹こうと雄のカワセミが嘉魚を啄み、その求愛行為に応えて雌のカワセミが鳴き舞っているのであろう。「塢」は土手の意。つがいとなったカワセミは、これからその土手のどこかに共同で巢穴を掘るのであろう。

さらに、唐の陸龜蒙の「翠碧」と題する七言絶句に、以下のように言う。

紅襟翠翰兩參差 紅襟 翠翰 両つながら
參差たり
徑弘煙華上細枝 徑に煙華を払い上る
に上る
春水漸生魚易得 春水 漸く生ずれば 魚
得易からん
莫辞風雨坐多時 辞する莫かれ 風雨 坐

ろに多時なるを

《襟もとが紅く青緑色の羽毛の二羽のカワセミが離れたところにいる。そうかと思えば、すぐさま飛び立ち川霧の中を花を掠めるようにして細い枝に留まる。春になり川の水が徐々に増えてくれば、魚も捕りやすくなるであろう。ひたすら風が吹き雨が降り続いたとしても、嫌がるではないぞ。》

カワセミは、頭から背中にかけては光沢のある青緑色をしているが、目の後ろは橙色である。「紅襟翠翰」とあるのは、カワセミのそのような外観を表現したものかと思われる。また、転句に「魚易得」とあるように、この詩もまたカワセミの捕食に着目したものと言えよう。

春になり水かさが増えると魚が捕りやすくなる一方で、魚が水中深く潜ってしまうと、さすがのカワセミもなす術がなくなるのか、唐の許渾の五言律詩「溪亭二首・其一」の頷聯に、以下のように言う。

蝉響蟪蛄急 蝉 響けば 蟪蛄 急に
魚深翡翠閑 魚 深ければ 翡翠 閑なり
《セミの鳴き声が響くとカマキリは忙しくなり、魚が深く潜るとカワセミは暇になる。》

このようにカワセミを詠った詩には、その捕食行為に着目したものが多いことが確認されるであろう。そのほかにも、北宋の梅堯臣の五言古詩「依韻和太祝同諸君游園湖見寄 [依韻 太祝の諸君と^{とも}に園湖に遊び寄せらるるに和す]」の一節に、

不逢浮沼雁 逢はず 沼に浮かぶの雁
但見銜魚翠 但だ見る 魚を銜むの翠
《沼に浮かぶ雁の姿は見えず、目にするのはただ魚をくわえるカワセミの姿だけ。》

とあり、南宋の陸游の七言律詩「小雨雲門溪上 [小雨の雲門溪^{ほとり}の上に]」の頷聯に、

離黃穿樹語斷続 離黃 樹を穿ちて 語る
こと断続たり

翠碧銜魚飛去来 翠碧 魚を銜みて 飛び
て去来す

《コウライウグイスは樹の中をくぐり抜けるかのように枝から枝へと移り、その鳴き声は途切れたかと思うとまた聞こえてくる。カワセミは魚をくわえて、飛び去ってはまたやって来る。》

とある例などが挙げられる。

四、夫婦和合の象徴

ところで、巢作りから抱卵そして育雛までを、雌雄が共同して行うカワセミは、「鴛鴦（オシドリ）」と同様、夫婦の和合を象徴するものとして認識されていたようである。例えば、南朝梁の劉孝威の七言古詩「擬古応教」の一節に、夫との別居を余儀なくされている妻の悲哀を詠って、以下のように言う。

双棲翡翠兩鴛鴦 双棲の翡翠に 兩の鴛鴦
巫雲洛月乍相望 巫雲 洛月^{たちま} 乍相い望
む

《つがいのカワセミにつがいのオシドリ。私たちはと言えば、あなたは巫山の雲の下、私は洛水を照らす月の下、離ればなれで遠くから望み見るばかり。》

仲睦まじそうな雌雄のカワセミとオシドリの様子を目にし、夫と離ればなれとなっている現実に変更して気づかされるのである。

また、このようにカワセミは夫婦和合の象徴でもあることから、そうありたいと願う女性の思いを込めてであろう、その持ち物や寝室の調度品、例えば屏風の図柄として描かれたり、掛け布団や帷張、下裳や帯などの模様として縫い取られたり、彩り鮮やかなその羽根は簪や簾の飾りなどに用いられたりしたようで、しばしば詩にも詠われている。例えば、旅に出たまま帰らぬ夫を独り待つ妻の思いを詠った唐の権徳輿の七言古詩「薄命篇」の一節に、

秋月空懸翡翠簾 秋月に空しく懸く 翡翠

の簾を
 春幃^{ものう}懶臥鴛鴦被 春幃に懶く臥す 鴛鴦の
 被に

《秋の月が明るく輝く夜、独り寂しくカワセ
 ミの羽根で飾った簾^{すだれ}を掛け、春の帷^{とばり}で仕切ら
 れた部屋の中で、何をする気にもなれずオシ
 ドリを縫い取った布団にくるまる。》

とある。異空間を同時に照らす月は、離れた人と
 人とを結びつけるよすがとなる。簾を掛けて秋の
 月を遮るのは、月を見ってしまうと夫のことが思い
 出されて、ますます悲しみが込み上げてくるから
 であろう。また、唐の白居易の七言古詩「長恨歌」
 の中で、寵愛していた楊貴妃を失った玄宗皇帝の
 悲しみを描いた一節に、

鴛鴦瓦冷霜華重 鴛鴦の瓦は冷やかにして
 霜華 重し
 翡翠衾寒誰与共 翡翠の衾は寒くして 誰
 と共にせん

《オシドリ模様の瓦は冷たくて、降りた霜も
 重々しく、カワセミを縫い取った掛け布団は
 冷え冷えと、共にくるまる人もいない。》

とあり、唐の李商隱の「独居有懷 [独居^{おも} 懷^う有
 り]」と題する独居の女性の孤独な思いを詠った
 五言排律の一節にも、

数急芙蓉帯^{しば} 数^{きつ}しば急くす 芙蓉の帯
 頻抽翡翠簪^{しき} 頻りに抽く 翡翠の簪
 《ハスの花を描いた帯を何度もきつく締め直
 し、カワセミの羽根で飾った簪を頻りに抜い
 ては挿し直す。》

とあるなど、こうした例はとりわけ「閨怨」⁽³⁾を主
 題とした詩を中心に数多く見られるようである。

五、おわりに

以上、岩崎川でカワセミの姿を目にしたのを機
 に、カワセミを詠った詩について眺めてみた。カ
 ワセミと言えば、急降下して水中に飛び込み、あ
 の長く尖った嘴で魚を捕らえる捕食行為を、誰も

が真っ先に思い浮かべるのではないかとされる
 が、唐宋の詩においてもやはりその点に着目した
 ものが多く見受けられた。また、それ以上に、カ
 ワセミは巣作りから抱卵そして育雛にいたるまで
 雌雄が共同して行うことから、夫婦和合の象徴と
 され、女性の持ち物や寝室の調度品などを飾るも
 のとして、「閨怨」の詩を中心に好んで詠われて
 いることが確認できた。

ところで、学生の頃に住んでいた東京の川はど
 こも、川底から川岸にかけて、すべてコンクリー
 トで固められていた。これではカワセミのあの長
 く尖った嘴をもってしても、巣穴を掘ることはで
 きないであろう。筆者の住む日進市もここ数年で
 開発が一気に進み、山林は削られ道路となり、た
 め池は埋められ宅地と化した。せめて岩崎川のあ
 の場所だけは、治水と称してコンクリートで固め
 てしまわないように、いつまでもカワセミが棲め
 る川のままであってもらいたいものだ。

【注】

- (1) 『オンライン野鳥図鑑』のカワセミを参照。
<http://www.yachoo.org/Book/Show/394/kawasemi/>
- (2) ちなみに、『本草綱目』によれば、カワセ
 ミは「魚狗・魚虎・魚師」とも称されていた
 ようで、李時珍の説明によれば、長く尖った
 嘴で魚を捕るカワセミは、魚を害する鳥であ
 ることから、狗(イヌ)・虎(トラ)・師(ラ
 イオン)など、獲物を咬む獣類の名を用いて
 名称としたとのことである。
- (3) 夫に棄てられた女性や帰らぬ夫を独り寝室
 で待ち続ける女性の悲哀を主題とした詩を言
 う。「閨」は、女性の寝室の意。

いろいろ大変だった アメリカ地質学会 ～オレゴン州ポートランド～

経営学部
古川 邦之

2009年10月16日～24日、アメリカ地質学会に参加するためオレゴン州のポートランドを訪れました。今回は、(1)学会前に開かれた巡検(調査旅行)と、(2)学会発表の様子について報告しますよ。

(1) 巡検(調査旅行)

僕たちの研究分野(地質学)の学会では、開催の直前が終了後に巡検と呼ばれるイベントがあります。これは簡単に言うと調査旅行でして、ある地域の地質の研究者を案内役にして、参加希望者を募ってその地域を案内してもらうという内容です。今回は、セントヘレンズ火山の巡検に参加しました。セントヘレンズ火山は1980年に大噴火を起こした火山で、あまりにも噴火規模が大きかったために、自らの山体も崩壊させてしまいました。噴火前は2950mあった標高も、噴火後には何と2550mになりました。つまり400mも崩壊したのです。そんなセントヘレンズ火山は、火山研究者のあこがれの場所なんですね。それにしてもこの巡検,, 超ハードでした。

巡検前日の空はどんよりしていて、時折雨も降っていました。・・・嫌な予感です。こういう時の予感的中率ってすばらしいですね。当日、現地は大雨ですよ。日本なら確実に中止になるくらいの雨ですが(ましてや登山だしね)、アメリカ人のフロンティアスピリッツは見習うべきです。みんな笑顔です。

参加者は50人、そのうち欧米人は49人です。望んでもいないのに超アウエーのアジア人(中国人も韓国人もいない)の僕は、強制的に人気者になります。「なぜ参加したの?」「なぜ友達と来なかつ



写真1

た?」「Aichiってどこだ?」「なぜ経営学部なの?」しまいにはアメリカ人のおじいちゃんにHONDAのすばらしさについて語られます。ま、半分くらいは聞き取れませんでした。

登山は歩くスピードの速さによって4グループに分かれます。しかも自己申告制なので緊張感たっぷりです。僕は歩きにはそれなりの自信があるので、上から2番目のグループに入ります。保険のため1ランク下げたわけですが、これがグッジョブ! 欧米人、速っ!!! について行くのがやっとです。しかも山道危なっ!!! 写真1の右側崖下は、はるか遠くに見えます。しかも引っかかる所がなさそう・・・。

雨は、来るな!と言わんばかりに激しさを増します。本当に痛い横殴りの雨ってやつですね。昼食用にサンドイッチを渡されており、どうやって食べるんだろう、と思っていると、やはり彼らは裏切りません。「じゃあランチにしよう!」というリーダーの声とともに、みんなサンドイッチを取り出します。そして横殴りの雨を背に、立ったまま、狭い登山道に一列になって食べます(写真2)。



写真2

びっしょびしょのサンドイッチは、ほんのり悲しい味がしました。

この雨の中、山頂がどこなのかもわからなかったのですが、帰路には少しだけ雨がやみ、雲が晴れ、山頂を望むことができました。写真3はその山頂です。1980年以前は、富士山のような非常にきれいな形だったのですが、噴火により崩壊し、山頂付近には巨大な穴があいているのが分かります。山頂が見える時間は短かったのですが、脳裏にしっかり焼き付けてやりました。



写真3

結局、全行程13.6km、6時間ほどのハードな登山でした。何がすごかって、この登山中、休憩は昼食時だけだったこと。しかも休憩にしては辛かったなあ。欧米人の体力は本当に驚愕でした。でもセントヘレンズ火山の迫力に圧倒された良い巡検でした。

(2) 学会の様子

今回は、僕の研究発表の前にひと仕事がありました。アメリカ地質学会では、各国に数人の広報担当がいます。で、僕がその係なんですね。その学会期間中に、広報お疲れさんという意味で、朝食会という名の会議があり、それに招集されていたんです。要するに各大学でのアメリカ地質学会の知名度を上げるには、とかそういう会議です。その会議が巡検の翌日だったんです、、、ま、書かなくても予想できると思いますが、完全に寝過ぎましたね。つまり日本代表1名欠席！いろいろ言い訳はあるのですが、<敗因1>前日の大雨の中の登山によるスーパー疲労。<敗因2>目覚まし時計のamとpmを間違えた。早朝集合なの

にpm7時にセットを、、、(主に敗因2ですね)。

気を取り直して学会発表の話。僕たちの学会の発表方法は2つあります。口頭発表とポスター発表です。口頭発表は、部屋の前の壇上に発表者が立って20分程度の研究発表をします。聴衆はいすに座って聞きます。授業みたいな感じですね。ポスター発表は、体育館みたいな大きな会場に、縦1.5m、横2m程のボードがたくさん並べられ、与えられた1枚のボードに発表内容のポスターを貼ります。発表者はその前に立って、研究内容を聞きたい人がふらっと来たら、説明をします(写真4)。発表に時間制限はありません。要するに口頭とポスター発表は、興味があるないにかかわらず大勢に聞かせるか、興味のある人だけに説明するのかの違いですね。口頭発表の方が主流だと思われるがちですが、僕を含めほとんどの人はポスター発表です。僕の発表は、学会開催期間のうち最終日でした。最終日の発表って悲劇なんです、、、

欧米で開かれる学会のポスター発表は、みんなフレンドリーで非常におもしろいです。その大きな会場では定期的にビールやワインが振る舞われます。参加者はお酒を手にポスターを見て回り、興味のある内容のポスター発表者と議論を始めます。発表にはコアタイムという時間があります。これは、その時間帯には必ずポスターの前に立っていなさい、という時間の事です。僕のコアタイムは16時~18時でした。

学会最終日、要するに僕の発表日、参加者達は各国に帰っていきます。多くの方はコロコロを引いています。飛行機の時間が迫ります。一人、また一人といなくなり、会場は閑散としていきます。そしてこの会場は次の日の早朝から、別の団体の



写真4

会議に使われます。やっぱり撤収作業は早めがいいですね！コアタイムが16時からだというのに、15時にはドリルの音が響きやがります。店じまいだよ、と言わんばかりにひとつひとつ看板が下ろされていきます。何度も言いますが僕の発表は16時からです。

17時。ここが流行りのシャッター商店街ってやつですか？僕の対面の若いアメリカ人研究者も、あまりの人の少なさにあきれています。僕と彼の間の通路は人が通りません。何度も目が合うし暇なのでその彼と話します。「日本人か？珍しいね。友達と来なかったの？」と、いつも通りのたいしてはずまない会話が進みます。でもひとつ覚えしました、人通りのない通りのことを英語では *deserted street* と言うそうです。Desert は砂漠ですが、動詞では「見捨てる」とかいう、その状況にぴったりの意味があるそうです。とりあえずお互いに写真の撮りあいっこをします（写真5）。そんなことをしていると、僕の左右の発表者はいつの間にかポスター撤収。帰宅です（写真6）。

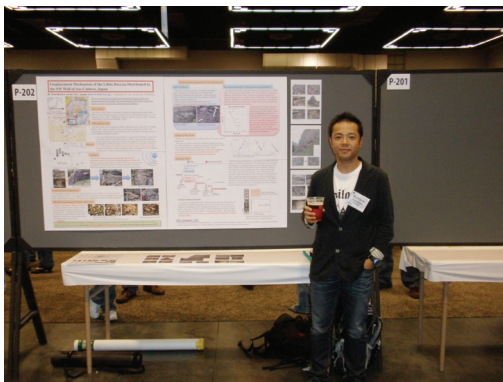


写真5

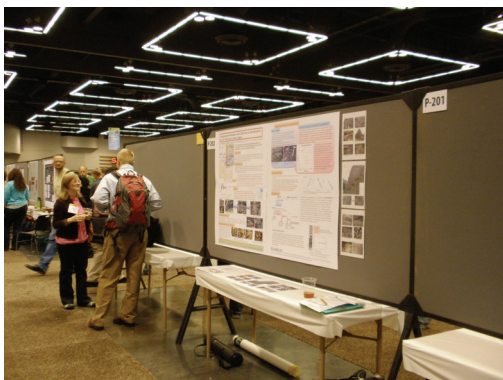


写真6

そして僕の左隣のボード前（写真6奥）では全く関係ない人達がビールを飲んでいます。BAR になっちゃったよ。

そんなこんなで発表終了です。最終日という発表条件は最悪でしたが、嬉しいこともあったんですよ。僕らの分野では超有名なアメリカ人研究者がポスターを見に来てくれて、説明をすると非常に興味深く聞いてくれました。内容についても良い結果だ、とお褒めの言葉を頂きました。今回の学会はその言葉だけで満足ですね。また次回もこの学会に参加したいですよ、もちろん発表は最終日以外で。

英語の辞書について（3） —コロケーション辞典—

法学部
北尾 泰幸

1. はじめに

語研ニュース No.21 で英和辞典について、前号（No.22）では英英辞典について述べたが、今回は語と語の結びつきである「連語、コロケーション」（*collocation*）がよくわかる、英語を書くときに重宝するコロケーション辞典について紹介したいと思う。

2. コロケーションとは

学生諸君は日本語の「する」という動詞を英語で言うとうなるかと尋ねられたら、何と答えるだろう。「do じゃないですか。」と答える学生がいると思う。確かに「宿題をする」（*do one's homework*）、「皿洗いをする」（*do the dishes*）、「研究する」（*do research*）のように *do* を使う場合もある。しかし、どんなときにも *do* が使えるのだろうか。少し考えると、*have a meal*（食

事をする)、play baseball (野球をする)、make a mistake (失敗する) のように、do 以外の動詞を使う例がすぐに思いつくであろう。このように名詞が結びつく適切な動詞というのは、それぞれの名詞によって異なるのである。では、このような適切な動詞というのはいったいどのようにして調べればよいのだろうか。

また、英語を書いている、名詞に形容詞をつけて、名詞の意味を膨らませたときがあるだろう。例えば阪神タイガースファンについて書き記し、この人が熱心なファンであることを述べるとき、学生諸君はこの「熱心な」という形容詞に当たる英語をどうやって探し出すだろうか。和英辞典で「熱心な」を引き、そのあと英和辞典や英英辞典で語の微妙なニュアンスを確かめるようなことを行わず、和英辞典で引いたままの単語をそのまま名詞 fan と重ね合わせてしまう学生が多いのではないだろうか。そうすると、例えば、「熱心な」という意味を持っている hard と、fan を合わせて、“# Tom is a hard Tigers fan.” のような変な文ができあがってしまうのである。このとき、fan とうまく結びつく形容詞はどうやって調べればよいのだろうか。

実はこういう語と語の結びつきのことを、「連語」あるいは「コロケーション」(collocation) といい、このようなコロケーションを調べるときに重宝するのがコロケーション辞典なのである。現在はコロケーション辞典にも様々なものがあるが、それらコロケーション辞典について紹介しよう。

3. 英和活用大辞典

3.1 「勝俣の活用」

学生諸君にとっていちばん使い勝手がいいコロケーション辞典は次のものである。

- 市川繁治郎 (1995) 『新編 英和活用大辞典』研究社

この『新編 英和活用大辞典』について語る前に、英和活用大辞典の歴史について少し触れたい。この英和活用大辞典は歴史が古く、「勝俣の活用」と言われた1939年発行 (奥付は1941年) の勝俣銓吉郎『研究社英和活用大辞典』(研究社) にまで

さかのぼる。「勝俣の活用」は、元ジャパン・タイムズの記者で、その後早稲田大学等で教鞭を執った勝俣銓吉郎氏が過去三十余年にわたり収集した英語表現をもとに、「連語、コロケーション」に着目して編纂した辞書である。名詞に最も重きを置き、名詞と動詞のつながり、名詞と形容詞のつながり、名詞と前置詞のつながりの例を記すとともに、動詞については副詞あるいは前置詞とのつながり、そして形容詞については副詞あるいは前置詞とのつながりの例を示している。「勝俣の活用」の「序」で勝俣氏は次のように書いている。

「名詞を主にして、これに他動詞を配する形を最も重要視した譯はかうである。Sentence は通則として動詞を要する。従つて動詞は表現単位として重要な位置を占め、sentence の魂とさへ言はれてゐる。英語の動詞の大多数は他動詞であり、また總て語の連結を支配する親和力の色彩が transitive verb + object なる連語に於て濃厚に現はれてゐるので、その連語は極めて重要な表現単位を成すのである。」

— 勝俣 (1941: 序)

このように、勝俣氏はとりわけ動詞と名詞の結びつきを重要視し、語の連語に着目して、それまでにはなかった画期的な辞書を作ったのである。それから約20年後の1958年には増補版が作られている。増補版の前書きには以下のような文句が書かれている。

「辞書は語の意義をあきらかにするのがその本領である。わが国における英語を例にとれば、そのために変則的には和訳・和訳による英和辞書があり、正則的には原訳、すなわち英訳による英英辞書がある。

ところが、わたしの『英和活用大辞典』は、これらの英辞書とその類を異にして、語義を示すのではなくて、語が他の語と慣習的に結合して一つの表現単位をなすその姿を広く採集し、これを文法的に排列したもので、その狙いは英語活動態 (English in action) を展示しようとするにある。

こういう観点から編集された辞書は、もちろん、英語にはなく、おそらく他の国語にもないと思う。わたしの辞書が新機軸を出したものであろう。語の

意味だけでなく語の結成型を対象にした辞書は、わが国の英語知識が字で生れ、語で立っているだけで、連語 (collocation) によって歩くという域に達していない現状から見て大いに意義がある存在と言えよう。」

—勝俣 (1958: iii)

この文言から、いかに勝俣氏がこの英和活用大辞典を自負していたかがわかるだろう。勝俣氏は同じ前書きに、以下のような文句も記している。

「初版の序に、私はこの辞書が「作った辞書」ではなく「出来た辞書」であるということを書いたのであるが、ここではこの辞書が「引く」だけではなく、「読む」辞書でもあるということを強調したい。この辞書を一日一ページときめて読めば、わたしが五十年かかって何万ページから拾い集めた何十万というコロケーションを四年ばかりで通覧し、English in action の千容万態のレビューができるのである。この実行を切におすすめる。」 —勝俣 (1958: iii)

勝俣氏が書いているように、英和活用大辞典はコロケーションを調べるために引くのに重宝する辞書であるが、それと同時に読んでいてもとても楽しい辞書である。ページをめくるたびに新たな発見があり、英語と日本語のことばの捉え方の違いも知ることができる「英語の百科事典」と言ってもいいほどの辞書である。実は私の研究室に「勝俣の活用」の初版と増補版がある。私の父が大学生のとき、所属していた会計学 (簿記) のゼミの先生から「勝俣の活用」を勧められ、お金を貯めて購入し英語学習に用いたとのことで、それを譲り受けた。本が古くぼろぼろになっているが、もし見てみたい学生がいたら、ぜひ研究室に見に来ていただきたい。

3.2 市川繁治郎 (1995) 『新編 英和活用大辞典』

この「勝俣の活用」は勝俣氏が個人で収集した例をもとに作られた汗と涙の結晶である辞書であるが、個人が収集できなかった例は収録されていないという問題点も残る。そこで市川繁治郎先生を中心に1985年から「勝俣の活用」を全面的に改訂する作業が進められ、1995年に『新編 英和活用大辞典』が発行された。改訂の際には、実際に

使われている現代英語の用例が収められた資料である「コーパス」(corpus) も活用された。

この辞書が英語を書くときにいかに重宝するか、名詞 research を例にこの辞書の効用を探ってみよう。『新編 英和活用大辞典』で名詞 research を引くと「n. 調査; 研究; 研究心」という意味とともに、次の下位分類から始まる連語情報が載っている。

・ 動詞 + 、 + 動詞、 形容詞・名詞 + 、
前置詞 + 、 + 前置詞

動詞 + の項では名詞 research の前にどのような動詞が来るか挙げられている。+ 動詞 は、名詞 research の後に続く動詞が載っている。形容詞・名詞 + は名詞 research の前に現れる形容詞および名詞が挙げられ、前置詞 + は名詞 research の前に来る前置詞、+ 前置詞 は名詞 research の後に続く前置詞が挙げられている。このように共起する語句を品詞ごとに挙げているのである。例が多いため全て載せることができないが、上記のうち 動詞 + の部分を抜き出し、下に挙げる。

¹research n. 調査; 研究; 研究心.

(動詞+) carry on research 研究を行なう / carry out research into quarks クォークの研究を行なう / commission cancer research がんの研究を委嘱(じゅく)する / complete one's research 研究を完成する / conduct researches into ... の研究を行なう / His researches are contained in a book recently published. 彼の研究は最近出版された書物に収められている / continue one's research in anthropology 人類学の研究を続ける / The association coordinates research into industrial archaeology at US universities. この協会はアメリカの各大学で行なわれている産業考古学の研究を調整している / a work displaying wide research and keen discernment 広範な研究と鋭敏な眼識を示している著作 / do research in marine biology [on brachiopods] 海洋生物学[腕足類]の調査[研究]を行なう / encourage research 研究を奨励する / extend one's researches farther afield 研究の対象をさらに広範囲に広げる / finance [fund] cancer research がん研究に資金を提供する / institute exact researches into ... の精密な研究を始める / make researches into ... の研究をする / patronize archaeological researches 考古学の研究を後援する / prosecute research on a subject ある問題の調査を行なう / pursue one's linguistic researches 言語学の研究を進める / sponsor sb's research 人の研究のスポンサーとなる[資金を出す] / stimulate and promote research 研究を刺激し助長する。

— 市川 (1995) 『新編 英和活用大辞典』

動詞 + の項で挙げられている carry on research (研究を行なう)、carry out research into quarks (クォークの研究を行なう)、conduct researches into... (...の研究を行なう)、do research in marine biology (海洋生物学の調査[研究]を行な

う)、*make researches into...* (...の研究をする) などから、「研究を行なう/研究をする」と言うときは動詞 *carry on, carry out, conduct, do, make* と結び付くということがよくわかる(注:しかし、これら動詞の間でも使用頻度の差があり、例えば *make research* はあまり使われず *do research* の言い方のほうがはるかに多い)。また、*pursue one's linguistic researches* (言語学の研究を進める) の例から、研究を先へ進めるという場合は動詞 *pursue* が使われること、また「研究を奨励する」という場合は *encourage research* と言うといった情報が得られる。従って、英語を書いているとき、書きたい内容を一度日本語に置き換えて、それを和英辞典で引き、出てきた数多くの候補の中から、当てはまるものが何であるか英和辞典なり英英辞典で探る... というように英語頭を日本語頭に切り替える作業をするのではなく、『新編 英和活用大辞典』で *research* を引き、当てはまる下位分類に挙げられた例を見てみると、「僕が表したかったのはまさにこれ!」といった具合に的確にはまる表現が見つけれられるのである。

名詞 *research* について見てみたが、当然品詞が変われば下位分類も変わってくる。例えば、動詞 *ask* を引くと、次のような下位分類が挙がっている。

- ・ 副詞 1 、 副詞 2 、 + 前置詞 、 + to do 、 + that 節 、 + wh. 、 雑

この下位分類から、動詞 *ask* は後に *to* 不定詞や *that* 節、*wh* 句を従えることが可能であることがわかり、また *to* 不定詞や *that* 節、*wh* 句が共起するときはどのような意味のときであるかがよくわかる。また *to* 不定詞は従えるが、動名詞 (-ing形) は従えないことがわかる。このように、コロケーションに加えて、語の文法、つまり語法も調べることができるのである。

このように、『新編 英和活用大辞典』は連語(コロケーション)情報がよくわかり、特に英語を書くときに重宝する辞書である。紙媒体に加えて、2005年には CD-ROM 版が、そして2008年には研究社の『リーダーズプラス』、『新英和大辞典 第6版』、『新和英大辞典 第5版』とセットになっ

た DVD-ROM Windows 版である『電子版 研究社英語大辞典』が発行されている。CD-ROM 版、DVD-ROM 版とも、コンピュータにインストールすることができるので、使うたびにいちいちコンピュータに CD-ROM や DVD-ROM を入れて起動させる必要もない。紙媒体は16,800円、CD-ROM 版が13,650円、DVD-ROM 版が31,500円と決して安くはないが、実は英語の授業をしていてわかったのだが、学生諸君が持っている電子辞書にはこの『新編 英和活用大辞典』が入っている機種も多いようである。持っているだけで使わないのは宝の持ち腐れである。今までどういう辞書がよくわからず、使うことをためらっていた学生諸君は、これを機にぜひ使っていただきたい。電子辞書に『新編 英和活用大辞典』が入っていない学生諸君は、図書館に紙媒体の辞書があるので、ぜひ活用していただきたい。

3.3 その他のコロケーション辞典

このように、コロケーション辞典は語と語の結びつきを教えてくれ、英語らしいナチュラルな表現を書くのに重宝する。学生諸君にとっていちばん使い勝手がいいコロケーション辞典が上で述べた『新編 英和活用大辞典』であるが、他のコロケーション辞典についても記しておく。

- Benson, M., Benson, E. and Ilson, R. (2010) *The BBI Combinatory Dictionary of English (Third Edition)*, John Benjamins.

このコロケーション辞典は、1986年に First Edition が発行されているが、1993年に New Printing のバージョンが、そして1997年に Revised Edition が発行され、本年4月には Third Edition が発行されている。書名の BBI は著者 Morton Benson, Evelyn Benson, Robert Ilson のラストネームの頭文字を取ったものである。コロケーションが句 (phrase) のレベルで表示されている。文 (sentence) の形では出てこないうえ、もちろん洋書であるので英語で書かれているため、英英辞典を使いこなしている学生諸君でなければなかなか巧みに使いこなすことはできないと思うが、『新編 英和活用大辞典』に載っていない見出し語も多数あり、ま

た見出し語の中身も大きな括りで定義 (definition) ごとに分類して連語情報を載せているので、語の微妙なニュアンスの差も探りやすい。また見出し語によっては“USAGE NOTE”という項目があり、語にまつわるちょっとした付加情報が載っている。例えば、chairman (議長) の USAGE NOTE では次のような情報が載っている。

・ ... in order to promote non-sexist language, the terms *chair* or *chairperson* are used more and more in place of *chairman* or *chairwoman*.

(言語に性差を求めない動きから、*chairman* や *chairwoman* に代わって、*chair* や *chairperson* という用語がより用いられるようになっている。)

別売で、BBI を使いこなせるように、BBI を引いて答えを探る練習問題が載った *Using the BBI* というワークブックがある。これまでは本の形で出版されていたが、Third Edition からは版元の John Benjamins のホームページで PDF ファイルを無料でダウンロードできるようになったので、英語の達人になりたい学生諸君はぜひダウンロードして挑戦してもらいたい。

- *Using the BBI: A Workbook with Exercises for the BBI Combinatory Dictionary of English.*
(URL) <http://benjamins.com/jbp/series/Z/bbi/workbook.pdf>

もし「BBIに興味があるけど、洋書はちょっと…」という学生がいれば、BBI の日本版がある。

- 寺澤芳雄 (監修) (1993) 『BBI 英和連語活用辞典』丸善

日本版では和訳も書かれているので、学生諸君にとっては求めている語を探しやすいだろうし、また日本語と英語の差がよくわかるだろう。ただ、日本版は1986年の First Edition をベースにしたものなので、若干情報が古い。Revised Edition の日本版も発行されなかったが、そろそろ2010年の Third Edition をベースにした新版の日本版が出てもいいのではないだろうか。

- McIntosh, C. et al. (eds.) (2009) *Oxford Collocations Dictionary for Students of English (Second Edition)*, Oxford University Press.

このコロケーション辞典のよいところは、『新編 英和活用大辞典』のように、各見出し語と結びつく語句を品詞別に挙げており、見出し語と結びつく語句を太字で羅列したうえで、例文を書いている点である。よってシソーラス (thesaurus) を引くような感覚で使うことができる。しかし、見出し語が結びつく語全てについて例文が載っているわけではない。え、もちろん英語で書かれているので、普段英英辞典を使いこなしていなければなかなか使いこなせないかもしれない。BBI 同様『新編 英和活用大辞典』に載っていない見出し語もあり、勉強になることも多いので、英英辞典を使い慣れている学生はぜひ使ってみていただきたい。

- 木塚晴夫 (1995) 『動詞 + 名詞 英語コロケーション辞典』ジャパンタイムズ【絶版】

これは学生諸君には使いやすい辞書であると思うが、残念ながら絶版になっている。しかし、愛知大学の図書館にあるので、一度手に取って見てもらいたい。名詞がどのような動詞と結びつくか、代表的な動詞が挙げられている。動詞と名詞の連語しか載っていないうえ、またその連語も典型的なものだけが収められているので『新編 英和活用大辞典』と比べると物足りないが、基本的なコロケーションを勉強するには役立つだろう。

また、本年 5 月末には Macmillan Language House からコロケーション辞典が出るそうである。この原稿が活字になるころには書店に並んでいるだろう。

4. まとめ

今回は英語を書くときに重宝するコロケーション辞典について紹介した。学生諸君は今まであまり「語と語の結びつき」について深く考えたことがなかったかもしれないが、実は英語を書くにあたってコロケーションに気を配ることは非常に重要である。英語非母語話者にとって英語のナチュ

ラルな語と語の結びつきはなかなかわかりにくいので、コロケーション辞典は大いに役に立つ。一度コロケーション辞典を手にとって使い始めると、その使い勝手のよさがよくわかり、英語を書くときにはコロケーション辞典が手放せなくなるであろう。今までコロケーション辞典を使ったことがない学生諸君はぜひ一度使っていただき、その便利さを肌で感じてもらうと同時に、英和活用大辞典の創始者・勝俣氏が前書きに書いていたように、時にはコロケーション辞典を「読み」、英語の奥深さ・面白さを堪能していただきたい。

補遺：日本語のコロケーション辞典について

英語のコロケーションは、特にコーパスが言語研究に多く用いられるようになってからは盛んに研究され、辞典も多数発行されているが、日本語のコロケーションの辞典については、まだあまり発行されていない（ただし「表現辞典」「日本語使い方辞典」のようなものもコロケーションの辞典であると考え、それなりにあるが）。詳しくは日本語を研究している先生方に聞いていただきたいが、私が知っている日本語のコロケーション辞典としては次のものがある。

- ・金田一秀穂（2006）『知っておきたい日本語コロケーション辞典』学研
- ・姫野昌子（2004）『研究社 日本語表現活用辞典』研究社
- ・小内 一（1997）『究極版 逆引き頭引き日本語辞典—名詞と動詞で引く17万文例—』講談社（講談社＋α文庫）【絶版】

金田一（2006）は名詞を見出し語として動詞との結びつきを記しており、姫野（2004）は動詞と形容動詞類を見出し語として挙げている。小内氏の文庫本はまだ日本語のコロケーション研究が盛んになされていないときに発行されたもので、なかなか面白い。言語学者ではない、校正を仕事とする小内氏が独自に集めた連語情報を載せたもので、その意味では「勝俣の活用」を思い起こさせる。その後、姫野（2004）のようなより優れたコロケーション辞典が出たというものの、小内（1997）の本が絶版になったのが残念である。

D.H.ロレンスの動物の描写について（その4）

経営学部

山田 晶子

ロレンスは、*Birds, Beasts and Flowers* (1923) という詩集で、多くの動物を詠っている。ここで取り上げられている動物は数多であり、コウモリや魚や蚊から、亀や蛇等の爬虫類までが詠われている。中でも有名な詩として‘Snake’「蛇」がある。今回はロレンスの文学において重要な象徴性を持つ蛇について書こうと思う。

蛇と言えば、聖書の創世記におけるアダムとイブを誘惑した蛇が世界的によく知られていると言えよう。エデンの園と言えば蛇の存在が欠かせない。エデンの園は楽園なのに、蛇という恐ろしい存在が潜んでいる。永遠の楽園は存在しないのである。神との闘いに敗れた悪魔サタンは地獄に落とされ、神への復讐の機会を虎視眈々と狙っていたが、遂に神の大事な大事な創造物であるアダムとイブを誘惑して墮落させるという報復手段を思いついた。そしてアダムとイブは、蛇に化身したサタンの姦計にかかり、神の命令に背いて知恵の木の実であるリンゴを食し、エデンの園を追われたのである。以上のことを鑑みれば、蛇はキリスト教者にとっては悪の存在であり、世界中にキリスト教の思想は広まっているので、蛇は「悪」の存在として受け取られていると思われる。また、蛇は形姿の似ていることから竜と関連しているので、竜もキリスト教圏内では悪として考えられるようである。絵画においても竜を退治する聖ミカエルの主題はたびたび表われている。

しかし、一方では蛇や竜が「善」なる存在として考えられることも多い。ロレンスの作品に描かれた蛇や竜は、この「善」としての意味を持っている点で、彼の思想の独創性を表わすものとして

考えられるのである。キリスト教において蛇が悪であるのにそれを善として描くことになれば、書き手はキリスト教に批判的な立場にいることは明白である。ロレンスの有名な詩「蛇」は、キリスト教の価値観の逆転を述べているものであり、彼の思想の独創性が表われている作品として有名なのである。

詩「蛇」において、語り手「僕」は、イタリアの暑い夏の日に水飲み場で蛇に出会う。蛇を見た「僕」は怖くなって棒を投げつけてしまうのであるが、投げつけるに至るまでの心境を詳細に分析し、反省をしている。なぜ自分は蛇を怖がらなければならなかったのか、本当は蛇に話しかけたかったのに、蛇に対する愛着さえ覚えていたのに、と自分の行為を後悔する。怖がったのは今まで受けてきた教育のせいであり、教育というものの偏狭さを批判している（「(棒を投げつけたことは) なんと小さな、なんと下品で卑しい行為であったのか！ / 僕は自分を軽蔑し、のろわれた教育の声を軽蔑した」）。この後で「僕」は、穴の中へ逃げてしまった蛇にもう一度会いたいと思う。蛇は追われた王のように思われるのであったが、このとき「追放された王」という言葉は神との戦いに負けて地獄へ落とされた悪魔サタンを思い起こさせるのである。

また、第9作目の長編小説『羽鱗の蛇』(The Plumed Serpent 1926) においては、大蛇そのものが小説の題名として用いられている。この小説は、ロレンスがメキシコに滞在していたときに知った古代アステカ文明の神ケツアルコアトルについての神話を題材として小説を書いたものである。「羽鱗の」という形容詞が用いられていることから分かるように、この大蛇は羽毛が付いた蛇なのである。つまり「鳥」の性質を備えた蛇なのである。蛇と言えば大地の上を這い、地中に潜ると考えられているが、アステカ人たちは、蛇が空を飛ぶと考えたのであった。ゆえに男女という二元を基に様々な範疇の二元の均衡を唱えるロレンスは、ケツアルコアトルの信仰を唱えるインディアンの男性2人を主人公にして、精神性を唱える一道のキリスト教に反するものとして、精神性(天)と肉体性(大地)の二道を目指すケツアルコアトルを描いているのである。これが『羽鱗の蛇』とい

う題名の意味である。ロレンスにとっては「肉体」というものが抑圧されていたヴィクトリア朝の思想とキリスト教の横暴に対して、「肉体」を奪回することが非常に重要なことであった。しかし現代において「肉体」が重視されているかと言えば、ロレンスの思想とはまた大きく異なった方向に向かっていえる。肉体と精神の二元の関わり方は人間にとって永遠の課題であろう。

アメリカセミナー紹介 —サウスイースト ミズーリ州立大学—

法学部
北尾 泰幸

1. はじめに

愛知大学は国際交流センターが中心となり、夏休みにアメリカ・イギリス・ドイツ・中国に、春休みにフランス・中国・韓国・イギリス・オーストラリア(ただし2009年度はイギリス・オーストラリアの代わりにカナダ)に、約4週間語学研修を行う「海外短期語学セミナー」を実施している。セミナー参加者で、研修先で所定の単位を修めた者は、帰国後教授会の審議を経て、共通教育科目「海外セミナー」の単位(2単位)を得ることができる。私は国際交流センター委員として、今まで2008年度夏期の「アメリカセミナー」(研修先: サウスイーストミズーリ州立大学)、および2009年度春期の「カナダセミナー」(研修先: クイーンズ大学)の学生の引率を行った。2009年度夏期はインフルエンザの流行により海外短期語学セミナーが全て中止になったが、今年度は予定人数が集まれば、例年どおりセミナーが開かれる。そこで、今回は私の引率体験を踏まえたアメリカセミナーの紹介を行いたいと思う。

2. 研修先：サウスイーストミズーリ州立大学

研修先のサウスイーストミズーリ州立大学 (Southeast Missouri State University: SEMO) は1873年に創立された公立大学である。学部 (undergraduate) は College of Business, College of Education, College of Health and Human Services, College of Liberal Arts, School of Polytechnic Studies, College of Science and Mathematics, School of Visual and Performing Arts があり、200を超す分野から専攻を選ぶことができる。アメリカセミナーでは International Education and Services にある Intensive English Program (集中英語プログラム) で学ぶことになる。



3. ケープジラード (Cape Girardeau)

研修先のサウスイーストミズーリ州立大学は、アメリカ合衆国中西部・ミズーリ州のケープジラード (Cape Girardeau) に位置している。ケープジラードはミシシッピ川沿いの港町である。市名のケープジラードは、1733年にミシシッピ川を見渡すことができる岬 (cape) に (現在は Cape Rock という公園になっている)、フランス人兵士ジーン・バプティスト・ジラルド (Jean Baptiste Girardot) が貿易拠点を置いたことにちなんで名づけられた。のどかな田舎町であり、人口は36,000人ほどである。

私はカリフォルニア州・ロサンゼルスに留学した経験があるが、ロサンゼルスと比べると、はるかに治安はよい町である。引率期間中サウスイーストミズーリ州立大学のインストラクターやホストファミリーなどケープジラードに住む人々に会っている話をしたが、皆、口を揃えて「ロサン

ゼルスのような都会ではあまり住みたくない。」と言っていた。小さなケープジラードの町を愛している、おらかな人が多かった。

4. 授業の内容

リーディング・スピーキング・リスニング・ライティングの英語四技能のレベルアップを図るべく授業が行われるが、各週の週末にフィールドワークが設定されていることから、フィールドワークの場所に関する題材をもとにして授業が行われる。2008年度夏期のアメリカセミナーでは、第1週目はミシシッピ川の氾濫を防ぐために建てられた洪水壁 (floodwall) でもあるが、現在はミズーリ州にまつわる有名人の絵と、ケープジラードの歴史的場面の絵が描かれている “Missouri Wall of Fame” にフィールドワークに行くことになっていたの、まずはその知識を得るためにケープジラードの歴史について学んだ (表紙写真参照)。インストラクターが独自に作成したケープジラードの歴史に関する教材を読み、その内容についてインストラクターが学生に尋ねていく。知らない町の歴史であることから読み解くのがなかなか手ごわい教材であるが、インストラクターが詳しい説明をしてくれるとともに、ケープジラードの歴史や町について、教材に載っていないことにも話題を広げて紹介してくれるので、学生は「早くフィールドワークに行って、ケープジラードの歴史を体感したい。」という気にさせられる。また、この課題に加えて、*The Mississippi* (World Almanac Library 発行、現在は絶版になっている) という本をグループで読み解き、内容について発表 (presentation) することが求められる。当然英語で発表するわけで、ただ単に文章を声に出して読むだけではなく、内容を分かりやすくまとめる技術が求められる。なかなか難しい課題だが、本の内容が面白いため、楽しんで取り組むことができる。

このように、教材を通じて、フィールドワークに行く場所の歴史や地理について学んでいき、英語の読解力・聴解力・作文力・会話力を上げていくことを目標としている。課題は非常に面白く、私は教室の後ろで学生が取り組む姿を見ていたが、私も中に入ってインストラクターと意見交換をしたい気にさせられた。

5. ホームステイ

セミナー期間中はケーブジラード、もしくは隣町のジャクソン (Jackson) の家庭にホームステイする。ホームステイ先は長年愛知大学の学生を受け入れてきた家庭が多い。引率期間中、2008年9月から愛知大学がサウスイーストミズーリ州立大学との間で始めることになっていた「1セメスター留学」のホストファミリーに対する説明会があり、私もそこに出席してホストファミリーと意見交換をしたが、ホストファミリーは皆、愛知大学の学生を非常に気に入ってくれていた。愛知大学の学生をホストするようになって、日本文化に対する興味が増してきたようで、私に日本の文化や生活習慣など、矢継ぎ早に質問をしてくださった。このように喜んで学生を迎え入れてくれる、快活で優しいホストファミリーを目の当たりにして、このようなホストファミリーのもとで過ごせる学生をうらやましく思った次第である。

6. フィールドワーク：セントルイス

上述のように、4週間の研修期間中いくつかの場所にフィールドワークに出かけるが、その一つが「セントルイス」(Saint Louis) である。セントルイスは、大学のあるケーブジラードに行く前に、飛行機で降り立ったところである。ちなみにケーブジラードはセントルイスから車で約3時間のところに位置している。

セントルイスは、現在オリックス・バファローズに復帰して活躍している田口壮選手 (背番号33) が所属していた大リーグ「セントルイス・カージナルズ」(St. Louis Cardinals) の本拠地として知られている、人口約35万人の商工業都市である。観光名所としては、セントルイス市のシンボルとなっている写真の「ゲートウェイ・アーチ」(Gateway Arch) がある。1803年にアメリカ合衆国第3代大統領トーマス・ジェファーソンが、フランスよりミシシッピ川以西のルイジアナを獲得する「ルイジアナ購入」を行ったことにより、それまで合衆国の西端の町であったセントルイスは「西部への入口の町」となった。未知の西部開拓へ向かった人たちの夢と野心をたたえ、この「ゲートウェイ・アーチ」が1965年に作られた。アーチは192mあり、アーチのてっぺんまでトラムで行

くことができる。アーチの地下には西部開拓博物館 (The Museum of Westward Expansion) があり、西部開拓の歴史に関する資料が展示されている。学生は西部開拓の歴史を学んだ上でセントルイスに行き、トラムに乗ってゲートウェイ・アーチの頂上からセントルイスの町を見下ろし、開拓者の野心に思いを馳せていた。



7. エクスカーション：シカゴ

研修で磨いた語学力を活かすべく、エクスカーション (小旅行) が企画されている。2008年度夏期アメリカセミナーはシカゴ (Chicago) にエクスカーションを行った。シカゴはイリノイ州に位置する大都市で、“Windy City” (風の街) という愛称で呼ばれている。

私は研修前半の引率だったため、エクスカーションには参加しておらず細かい点について書き記すことができないのが残念だが、セミナー参加学生によると、ケーブジラードとは違うアメリカの魅力を体感できたとのことである。また、自分の使った英語が通じる感動も味わうことができたそうである。

8. パンケットでの発表

4週間の語学研修の総決算として、パンケット (banquet) が開かれる。これはセミナー参加学生はもちろんのこと、セミナーで英語の授業を受けたインストラクターと、ホストファミリーが参加する晩餐会である。

ここでは、学生がインストラクターとホストファミリーへの感謝の意を表すべく、プレゼンテーションを行うことが求められる。プレゼンテーション

の内容は学生のオリジナルであることが求められるため、学生は意見交換をし、皆で一つのもを作り上げる。このバンケットも、前半引率者であった私は参加していないが、参加学生によると、「日本の四季」について、劇仕立てで発表したとのことである。インストラクターのブランドン (Mr. Brandon Scheldt) からもらったメールによると、内容・チームワークともに実に良いプレゼンテーションだったとのことである。

9. まとめ

このように、アメリカセミナーでは、ケープジラードの町に行くからこそ学べる内容が提供されている。セミナーの参加費は決して安くはないので学生の皆さんに「ぜひとも行くべきである。」とはもちろん言うことはできないが、長期留学を考えている人はその前段階として本セミナーを活用するのもよいだろうし、短期留学を考えている人は、語学学校ではなく大学で学ぶことができる本セミナーに参加するのは有益であると思う。もともと本稿はこの夏に海外短期語学セミナーに行こうと思っている学生向けに書くつもりだったが、この原稿が印刷される7月には夏期短期語学セミナーの説明会が終わってしまっている。しかし、春にも短期語学セミナーが行われる予定であるし、またサウスイーストミズーリ州立大学については約3ヶ月間留学する「1セメスター留学」があり、こちらは9月に説明会が開かれるので、興味がある学生はぜひ説明会に出席してもらいたい。「説明会まで待てないので、すぐ詳しいことを知りたい。」という学生諸君は、名古屋校舎・豊橋校舎の国際交流センターに訪ねてもらえば、短期語学セミナーについていつでも詳しく説明していただける。また私の体験でよければ、研究室に来ていただければお話をさせていただくので、いつでも研究室に訪ねていただきたい。

また、名古屋語学教育研究室のホームページにある「外国語ハンドブック」に、学生による2008年度夏期アメリカセミナー、および2008年度春期イギリスセミナーの体験記が載っているので、ぜひ読んでいただきたい。また2008年度夏期アメリカセミナーで愛知大学の学生を指導してくれたブランドンが2008年度のアメリ

ビデオクリップにしてくれており、サウスイーストミズーリ州立大学・集中英語プログラムのホームページにて見ることができるので、ぜひこちらもご覧いただきたい。

URL

- ・名古屋語学教育研究室「外国語ハンドブック」
<http://leo.aichi-u.ac.jp/~goken/handbook.html>
- ・2008年度アメリカセミナー ビデオクリップ
<http://www.semo.edu/iep/gallery.htm>
- ・サウスイーストミズーリ州立大学
<http://www.semo.edu>
- ・サウスイーストミズーリ州立大学
Intensive English Program
<http://www.semo.edu/iep/index.htm>

(海外最新事情)

アメリカ

アメリカの結婚事情

名古屋語学教育研究室 林 姿穂

アメリカは誰もが知る「離婚大国」だ。アメリカの離婚率の統計を見てみると、結婚したカップルのうち、40パーセント以上が離婚している。アメリカでは当事者同士の愛が消えたら結婚生活は終わり、子どもを含め周りへの配慮を日本ほどはしないのではないと思われる。2009年度の『世界青年意識調査』によると、アメリカの青年（18歳～24歳）の約25パーセントが「互いに愛情がなくなれば離婚すべきである」と考え、約半数の青年が「子どもの有無にかかわらず、事情によっては離婚もやむをえない」と答えている。結婚そのものが当事者同士のものであり、家族という単位ではなく個を大事にするアメリカらしい統計結果だ。「離婚観」においては、アメリカの青年の72.6パーセントが結婚生活の継続を重視せず、離婚を肯定的にとらえているようだ。

さて、個を大切にすれば、結婚に対してアメリカ人はそもそも否定的で独身生活を謳歌する傾向にあるのではないかと疑問がわく。しかし、意外なことに、同調査の「結婚観について」の項目では、「結婚したほうが良い」、または「結婚すべきだ」と回答した青年がアメリカでは59.7パーセントであり、それは調査対象となった国の中で一位の日本（77.3パーセント）、二位の韓国（73.3パーセント）に次いで三位という結果であった。

結婚する事と離婚する事の両方に肯定的なアメリカ人の再婚率が高いのは当然の事のように思える。日本のように人生に一度きりだからと言って、結婚式に数百万を費やしゲストをもてなすことはアメリカ人にとっては考えにくい事なのかもしれない。勿論、最近日本でも「ジミ婚」という言葉

が一般化されており十分簡素化の一途をたどっている。しかし、アメリカほど日本はまだ簡素化はされていないのは言うまでもない。

ここで、アメリカだけにしかない、世界で一番簡単な結婚式と、一風変わった結婚までの手続きを紹介したいと思う。世界で一番簡単な結婚式ができる式場は、皮肉なことにアメリカ全土でも最も離婚率の高いネバダ州にある。ネバダ州と言えばギャンブルで有名なラスベガスだ。ラスベガス郊外には、至る所に、歴史を全く感じさせない、けばけばしい装飾の教会がある。「キッチュ」という言葉がぴったり当てはまるような教会が通り沿いに点在する。広辞苑を見てみると「キッチュ」とは「まがいもの、本来の使用目的から外れた使い方をされているもの」という説明がされている。私がラスベガスで見た教会は信者の集会場としての伝統的な教会ではなく、教会まがいのものである。スラム街とまではいかないが、如何にも治安の悪そうな地域に建てられており、人通りも少ない。夜に一人で歩くのはとても怖くて出来ないと言うのが私自身の感想である。教会と言っても礼拝堂があるわけではない。車が一台通れるような道が教会の中にあり、マクドナルドのドライブスルーのようにになっている。マクドナルドではレジに店員が待機し、食べ物の受け渡しをするが、こ



の教会では代わりに神父が、常に2, 3人小さな部屋で待機している。そして、24時間いつでも結婚式ができるように車に入ってくるカップルを待機しているのである。予約が必要な教会や24時間営業ではない教会も一部あるようだが、基本的には飛び入りでも神父が応じてくれる。

アメリカでは思い立ったら結婚式は簡単に出来る。日本のように数ヶ月前から計画する必要もない。まずは、教会に向かって車を走らせ、教会が見えてきたら矢印に従って教会のゲートをくぐる。前に車が止まっていれば、それは前のカップルが牧師の前で誓いをしている最中なので、自分の順番が来るまで待っていなければならない。待ち時間は15分ほどで、そう長くはない。即ち結婚式の時間がたったの15分しかなく、それが終われば車で教会を出るという仕組みになっている。オープンカーで教会に来るカップルは、車に乗ったまま、降りることなく、挙式ができてしまうのである。現地では「ドライブスルー・ウェディング」と呼ばれており、最も低価格で簡単な結婚式を売り物にしている。ポール・ニューマン、ブルース・ウィルス、マイケル・ジョーダンをはじめ多くの有名人が、「ドライブスルー」で挙式をしている。

日本では豪華な結婚式を売りにするブライダル業界や豪華な結婚式こそがステータスだと考える思想もあるが、アメリカでは有名人までもが「ジミ婚」だ。

さて、夜中に教会が開いているのにも理由がある。それは、結婚の書類手続きをする役所がネバダ州では深夜まで開いているからだ。ここでの手続きを済ませないとラスベガスでは結婚式を挙げ

ることはできない。役所の窓口は、平日は朝8時から深夜12時までで、週末は驚いたことに、24時間受付をしてくれる。ここでの申請に必要な書類は特にはない。基本的には二人が結婚に同意していることを互いに確認し合う書類にサインするだけだ。更に、日本とアメリカの結婚で大きく異なる点は、血液検査証明書の有無である。アメリカでは基本的にはエイズ予防のための血液検査証明書が結婚するにあたり必要である。しかし、ネバダ州は例外でその書類を提出する必要はない。事務手続きに要する時間は、ほんの15分程度で、それが済んだら教会などで結婚式を挙げるという流れになっている。

教会は至る所にあるので、見つけるのに苦労することはない。宣誓を済ませた後、教会が発行する証書を受け取ったら結婚が成立となる。このような簡素な結婚式なので、家族や友人用の席もなければ、それを見守るための場所も用意されていない。実際に祝福の声をかけてくれるのは通行人だけといった、何とも寂しい結婚式ではあるが、結婚そのものが「当事者同士」のものであることを象徴するようなアメリカらしい結婚手続きと結婚式である。

これを「アメリカらしい」と言えるようになったのはごく最近の事かもしれない。17、18世紀においては結婚の決定は一般的に親がしていたと言われている。家格や経済的要因が重視されていた上、個人的愛情を優先しない家同士の結婚は、当時、共和国の建設と共同体維持のために無くてはならなかったのだろう。資本主義の発展に伴い、19世紀初頭から結婚においては個人の愛情が重要視され始めた。共同体の結びつきが弱まると同時に夫婦関係や家族関係も壊れやすくなり、より私的になってしまったのだろう。宗教色が薄れキッシュな教会で、信者でなくても受け入れてくれるドライブスルー・ウェディングの簡素さを見ると、結婚式はかつてのような一大イベントではなく、娯楽の一種になったのではないかと考えて仕方が無い。



フランス

フランスの学校事情－ 偏見と現実 －

法学部 中尾 浩

はじめに

2009年4月から1年間、海外研修の機会を与えていただいた。まずは愛知大学、とりわけ名古屋外国語研究室の同僚の皆さんにお礼を申し上げたい。おかげさまで、病気や事故もなく、無事に1年を過ごすことができた。この1年で得た成果を今後は大学および学生諸君にお返ししていきたいと思っている。

初めての海外長期留学は今をさかのぼること15年前の1995年から1997年であった。もちろんそれ以前に短期で何度かフランスには渡っていたが、半年を超える長期の滞在はその時が初めてであり、最初の留学は我ながら何が何だかさっぱりわからないうちに2年間で過ぎ去ったような印象がある。それに比べると、今回は既に一度経験済みなので何かと余裕が……と言いたいところだが、何度行っても新しい経験に満ちているのが海外生活だ。今回も多くを経験をした。前回の経験を生かしてうまくいったこともあれば、前回の経験があだになって逆にうまくいかなかったこともあれば、今回全く初めてだったので、とまどったこともあった。今回は家族同伴での長期滞在中、子供二人を日本人学校ではなく現地校に通わせた。そこで、フランス、とりわけパリ、もっと正確に言えば私が経験した範囲内の幼稚園および小学校事情について紹介したい。

1) フランスには幼稚園がない？

と書くと驚かれるかもしれないが、日本の幼稚園や保育園に相当する、3～5歳児が通うのも立派な「学校」エコールなのである。フランス語では *école maternelle* (エコール・マテルネル) と呼ばれ、通っている子供たちにそんな自覚があるのかどうかよく分からないが、子供向けの本を読む限り、「ぼく(わたし)、お兄ちゃん(お姉ちゃん)になったよ!」、と誇らしげに思えるほどらしい。

フランスは先進国の中では奇跡の出生率を達成

している。日本のように、厚生労働省が管轄する保育園と文部科学省の幼稚園のような複雑なことは一切ないので、学齢に達すれば基本的に誰でも入学できる。条件はトイレトレーニングができていくことくらいなものだ。トイレトレーニングができていないと、入学を遅らせることもあるらしいが、それほど厳しくは求められていないように思えた。

子育て支援におけるエコール・マテルネルの存在は大きい。あちこちで泣きわめく子供たちをものともせず、先生は子供を受け取ったら「さあ、早く仕事に行け!」と言わんばかりに手を振ってくれる。親は心配だが、相手はプロの先生だ。安心して任せてかまわない。

小学校は *école élémentaire* (エコール・エレマンテル) と呼ばれ、日本と違って5年生までだが、逆に中学校が4年間あるので、義務教育の年数はどちらも9年間で同じである。そして *école primaire* (エコール・プリメール) は初等教育という意味で、マテルネルとエレマンテルを合わせたものを言う。以下、特に断らないかぎり、フランスの学校と書いてあればエコール・プリメール、すなわちマテルネルとエレマンテルの両方を指すことにする。

2) フランスの学校には行事がほとんどない？

日本だと、入学式に始まり、始業式、卒業式、終業式、運動会、学芸会、と行事のない月はないのではないかと思えるほど行事が多く、そのたびに、午前で終わりとか時間割り変更などがあるが、フランスの学校には行事はほとんどない。記憶に残っているのは、幼稚園で謝肉祭最終日 (*Mardi gras*) の仮装ダンスパーティがあったのと(小学校でも小規模なパーティはあったらしいが、わざわざ仮装まではしない)、小学校の最終日(6月最後の日曜日)にみんなで食べ物を持ち寄り、手作りのゲームなどをして楽しむ日があったくらいである。そもそも小学校は親も特別の事情がない限り校内に入れない。フランスでは親が子供を学校まで送り迎えしなければならない。幼稚園は校内に入って、教室で先生に直接預けて、帰るときも教室まで迎えに行く必要がある。小学校は朝は門まで送って行って、そこでお別れ。帰りは門の

前で子供たちが出てくるのを待っている。

それに対して、校外学習は比較的多かった。何しろパリは地下鉄に乗って少し行けば、いくらでも美術館や博物館があり、政府から補助が出ているので、学校は事前に予約さえしておけば、交通費だけで子供たちを色々なところに連れて行ける。さすがに幼稚園はボランティアで付き添いのお願いがあったが、別に行っても行かなくても良い。小学校の場合も、弁当の用意など一切ない。午前中に出かけて給食までに帰ってくるか、給食を食べてから出かけるかのどちらかで、1～2ヶ月に1回くらいはそのような校外学習をしていたようだ。

3) 幼稚園と小学校の給食は同じ？

幼稚園も小学校も始まった初日からいきなり給食 (cantine) が始まる。給食センターの都合もあるのだろうが、たとえば私が住んでいたパリの13区で歩いて行ける範囲内の幼稚園と小学校は全て同じ給食内容であった (入り口の掲示板に今週の献立が貼りだしてある)。事実、子供たちの話を聞いていると、長男はソーセージが2本出たと言ひ、次男はソーセージは1本だったと言う。中身は同じで量を調整しているらしい。

しかし、そうなると、給食の内容も大変である。エコール・マテルネルに入る権利ができるのが3歳で、中学入学前の小学生は11歳という実に8歳の年齢差の子供を満足させる給食内容となると、小さい子には厳しいものがあるようだ。小学校の前で献立を見ている限りは「ご馳走だなあ」と思うだけだが、幼稚園の前で同じ献立を見ていると、「う～む、幼稚園児にこんなもの食べられるんだろうか」、という気がする時もよくあった。どうやら主として小学生向けの献立で、月火木は肉、金曜日はたいてい魚がメインディッシュで、必ず小学生が苦手なような野菜の付け合わせがある。幼稚園児が喜んで食べそうな感じがしない。あまりフランス食に慣れなかった次男は、ヨーグルトなど以外は食べない日が多かったが、他の親に聞くと、似たようなものなので、それほど心配する必要はなかった。フランスの幼稚園児もパスタ、フライドポテト、チキンナゲットといった日本人にも人気の献立が大好きで、そんな日は小さな子

供たちもたくさん食べるそうである。

4) フランスの小学校には体育 (音楽、図工) はない？

と私は思い込んでいた。何かの本で読んだか、誰かから聞いたのだと思うが、フランスの学校は勉強をするところであって、勉強に関係のないことはしない、と。しかし、この思い込みは良い意味で裏切られた。エコール・マテルネルにはさすがに教科科目はなく、やっていることは日本の幼稚園とだいたい同じで、図画工作や体操が主である。帰る前にはよく歌の授業があった。エコール・エレマンテルの方は日本と同じくフランス語 (国語) や算数といった教科科目の授業がある。ところが、驚いたことに、水泳、体育 (いずれも近所のスポーツセンター)、音楽、図工、がちゃんと授業の中に組み込まれていて、水泳と体育はわざわざ専門のインストラクターによる評価までくれる。音楽と図工は学校で歌を歌ったり、楽器を演奏したり、紙で工作をしたりしていた。授業後のオプション授業も充実していて、我が家の長男は週に一度、学校主催の放課後授業で空手を習っていた。他に、バドミントン、卓球などが選べた。

長男は外国人クラス (CLIN) に所属していて、本来の学年のクラス (CE2) にはたまにしか行かなかったのだが、時間割りがフレキシブルと言えは聞こえはよいが、かなり適当であった。たとえば火曜日の午前中は算数と書いてあるのに、理科の授業 (天体の話) があつたらしいので、理科に変更になったのかと思っていたら、次の週には英語の授業が入ったり、とにかく子供がもらってきた時間割り通りに授業がおこなわれていない。時間割り通りだったのは皮肉にも、水泳、体操、音楽、図工だけであって、その他の科目はどうやら担任にかなり自由に任されていたようだ。

5) フランスの学校はやたら休みがある？

とにかく休みが多かった。日本の学校も、やれ運動会だ、やれ卒業式だと、何かと行事や短縮授業が多く、これでは落ち着いて勉強できないだろうと思うのだが、フランスは運動会も卒業式もない代わりに、バカンスが多い……。大まかに言って、パリの場合、9月に新学期が始まると10月の

末に万聖節 (Toussaint) のバカンスが2週間、クリスマス (Noël) の休みが12月20日頃から1月5日頃までやはり2週間、冬のバカンス (通称スキー休み) が2月中旬から2週間、春休み (復活祭 (Pâques) 休暇) が4月上旬から2週間と、1ヶ月半通っては2週間休みといった感じである。

しかも、通常も水曜日が休みなので、確かに幼稚園も小学校も普段は午前8時半に始まり、4時半まで通常授業があるので、日本に比べれば長そうに見えるが、全体的に見れば、日本と同じくらいしか勉強していないことになる。フランス国内でも、たとえば2日学校に行っては1日休み、また2日学校に行ったら、今度は週末の休みというのは勉強のリズムが悪いとか、8時半から4時半まででは長すぎて集中力が続かないなど、色々と議論はされている。今後、どのように改革がおこなわれるのか……。

6) 働く親の強い味方！

このようにバカンスがやたら多いので、これでは働く親 (とりわけ母親) はたまったものではないと思われるが、そうではない。Centre de loisirs (サントル・ド・ロワジール、以下、サントルと略す) という制度があり、要するに学童保育システムである。これは場所は通常の学校と同じ敷地を用いるが、学校の組織とは全く別で、平日の4時半から6時まで (場合によっては7時まで) と、土日を除いた (場所によっては土曜日も預かる)、バカンス期間中の全日、終日に渡って子供を預かってくれる。活動場所が同じというだけで、学校とはほとんど何の関係もない。学校の校長先生とサントルの責任者も別である。我が家は特にサントルに通わせる必要はなかったが、公園や博物館に行くとバカンス期間中なども、入れ替わり立ち替わり、あちこちのサントルのグループに出会ったものだ。サントルの活動は基本的に芸術、スポーツ、野外活動など、教科科目以外の全般に渡っている。公園では走り回って遊ぶと同時に、植物や昆虫の観察をしている姿などもよく見かけた。

サントルでは平日の4時半から子供を預かるのだが (しかもおやつが出る！ 水曜日はもちろん給食が出る)、同じ敷地内で、方やサントルに参加する子供がいれば、他方で学校主催の空手だの

バドミントンだのに励む子供もいれば、補習授業に精を出している子供もいる (無料ではないが、廉価で週1～4回受けられる) という複雑怪奇な状態になっている。月木は補習授業に出て、火金はサントルに出席、などということもありうる。このようなフレキシブルな組織運営は日本では考えられないことであって、確かにこれだけ手厚く子供の面倒を見てくれれば親も安心して子供を産んで働きに出かけられるのだなと感心した。

日本がフランスから学ぶことはまだたくさん残っている。外国から学ぶことがある以上、我々は外国語を学ぶ意味がある、そう感じた一年だった。

第15回 外国語コンテスト

英語部門

第15回目の英語スピーチコンテストは、11月9日に開催され、8名の参加者があった。内訳は、現代中国学部2名、経営学部2名、法学部4名であり、2年生から4年生までの学年の学生が熱い戦いを繰り広げた。英語の場合は、自分でタイトルを決めて、500語以内で英文を作成して、原稿を見ないでスピーチをするか、或いは原稿を読むという形を取っている。8名の参加者のテーマは、環境問題、夢を見ることの重要性、読書の面白さ、そして外国旅行で得た体験談など、幅広いものであった。審査員は、本学法学部のジョン・ハミルトン先生と愛知学院大学から審査員として来ていただいたイギリス人の先生であった。上位3位までの入賞者は以下の通りである。

- 1位 08J1323 浅井 智也
- 2位 08J1391 饒 応豪
- 3位 06M3281 鈴木 亮太

1位の浅井智也さんの「My Funny Hobby」、2位の饒応豪さんの「Why is it good for us to read?」、3位の鈴木亮太さんの「Six Bridges over the River Tyne in New Castle」等々、内容が豊かで独創的なものが多くて、審査員の2人の先生方も、感心してみえた。審査は内容、文法、発音、表現力の4つの観点から評価をし、50点満点で採点がされた。次回も多くの学生に参加してもらい、英語スピーチの力を伸ばしてもらいたいと思っている。

なお、2009年4月に大妻女子大学へ移籍された安藤聡先生からは、スピーチコンテスト当日に激励の電報が届いた。感謝申し上げる。

(山田晶子)

ドイツ語部門

2009年度の名古屋語学教育研究室主催第15回外国語コンテスト・ドイツ語部門の本選が、2009年11月20日(金曜日)の午後4時40分より名古屋校舎中央教室棟3階にある第1研修室でおこなわれました。その結果を報告したいと思います。

今回の課題は、「Ein Haus im Grünen」という題名のA4で1ページ弱のものを選びました。内容は、多くのドイツ人にとって憧れの生活である別荘暮らしをあつかったものです。夢見ていた別荘生活を実際に始めるにあたっての数々の苦労と不便などが、それでも前向きにかつユーモアにみちた文体で書かれたものです。

参加者にとって新規のテキストとなるため少し難しく思われたようです、また今年は日程が早まった都合で練習時間が取りにくかったせいでしょうか、参加者は例年に比べてはるかに少なく5名でした。

審査にあたったのは、ドイツ語の非常勤講師をお願いしている鶴田涼子先生と経営学部所属のドイツ語担当教員である私(島田了)の2人で、表現力と発音・アクセントの合計点で審査を行いました。

決して難易度は高くないテキストですが、授業で扱ったものではないためそれなりの準備と練習が必要です。基本となる発音・アクセントの確かさはもちろんのこと、今回はユーモアのある文体を表現するために深い理解と技術が必要とされます。それでも参加者は各自で熱心に練習に取り組んだ様子で、人数の少なさにもかかわらず、高いレベルで完成度を競う結果になりました。参加者いずれも優劣つけがたく、本当にわずかの差で順位を決めざるを得ませんでした。結果は、第一位(優勝)中山慎也さん(07M3625)、第二位近藤優真さん(08J1275)、第三位は、同じく優劣つけが

たく、その結果該当なしとなりました。

他の外国語に比べて履修者が多いとはいえないドイツ語部門ですが、これを言い訳にしないように今後はもっと多くの参加者が集まるようにしたいと思います。

愛知大学でドイツ語を履修する学生の皆さんの関心や質の高さは常々大いに評価しています。名古屋校舎は法学部・経営学部といった社会科学系の学部を中心としたキャンパスのため、決して満足のいく外国語教育の環境でない事は変わりません。それにもかかわらず、ドイツ語に積極的に取り組む学生がすくなく存在するということは、ドイツ語の担当教員として大変うれしくかつ誇りに思います。

今年は名古屋で、生物多様性条約第10回締約国会議、通称 COP10 が開催されます。生物の多様性が重要である事はいうまでもありませんが、人間のあり方や考え方、生き方や価値観など、精神にかかわるすべての分野においても多様性を認める動きが今後加速されていくことを願っています。また学生の皆さんがさまざまな物事に興味を持ち、多様な考え方ができるようになる、そしてそのことによってより質の高い人生を送ることができるようになることを強く願っています。ドイツ語の学習がそのきっかけのひとつになればこれほど嬉しい事はありません。

最後になりましたが、意欲的な学生の皆さん、語学教育研究室にかかわっている多くの教職員の方みなさんのおかげで今回もこのような意義のあるコンテストを続けることができましたことに、心よりお礼申し上げます。(島田 了)

フランス語部門

第15回外国語コンテスト・フランス語部門は2009年11月27日、例年のように国際コミュニケーション学部のラッセン先生に審査をお願いして開催した。参加者は1年生：1名、2年生：6名、3年生：1名の計8名であった。前回と比べて、1年生の参加が少なかったこと、4年生の参加者がいなかったことなどから、参加者数が半減した。なお、学部別では、法学部の学生が6名、経営学部の学生が2名であり、次回以降、経営学部の学

生の積極的な参加を期待したい。

さて、フランス語部門においては、例年、あらかじめ与えられた課題文を全員に朗読してもらい、その中で発音や読みの正確さを基準に数名を選抜し、その人たちにその場ではじめて見るテキストを朗読してもらって入賞者を決定するという予選・決戦の2段階方式をとっている。今回もこの方式を踏襲したうえで、予選および決戦で用いたテキストを、1年生用と2年生以上用に分けた。

予選を通過した6名によって決戦が行われ、2年生が1位から3位までを独占する結果となった。1年生でただ一人参加した学生は、予選での成績はトップクラスであったが、決戦においては、綴りの読み間違いが散見されたために入賞を逃がす結果になったのは残念であった。ぜひとも再挑戦していただきたい。1位になった関麻央さんは、前回、すなわち1年生の時に見事3位に入賞した学生である。このコンテストでは、難しいことを要求しているわけではなく、発音や綴り字の読み方について普段どれだけ注意しながら学習しているかを見るものであり、また、コンテストに参加して練習することによってそれらの点についての復習・整理にもなるのであるから、1年生にもっと参加してもらいたいと思う。

いずれにせよ、積極的に参加してくれた諸君全員の健闘を讃えたい。また、今回入賞を逃した人たちも、今後の学習次第と練習次第で誰にでも入賞の可能性があるから、ぜひとも再挑戦していただきたい。

入賞者は次の通りであった。

- 第1位 08J1006 関 麻央里
- 第2位 08J1136 加納 直美
- 第3位 08J1147 嵐 香織

(田川光照)

中国語部門 (法・経営)

第15回外国語コンテスト中国語法学部・経営学部部門は2009年11月24日(火)午後4時40分より209教室にて行われました。3年生7名、2年生47名、合計54名の学生が参加しました。今回は「北京市民は仕事が終わってからどんな時間を過ごしているのか、昔と今では過ごし方にどんな違

いがあるのか」という内容の文章を、全員に朗読してもらいました。評価基準は、まずピンイン(中国語発音記号)による発音の正しさです。その他に文章の区切り、強弱のつけ方や速度が適切でスムーズであるかをみました。参加者が多く、会場は熱気にあふれ、みんな最後まで熱心に発表を聴いていました。

審査員は経営学部の方田博士先生と法学部の鄭が担当しました。厳正な審査によって、次の入賞者が決まりました。

- | | | |
|-----|---------|-------|
| 第1位 | 07M3217 | 小澤 寛記 |
| 第2位 | 08J1026 | 佐藤 奈穂 |
| 第3位 | 08M3534 | 木村 將志 |

第1位に入賞した小澤寛記さんは、きれいな発音と朗読のスムーズな流れという点が特に優れていました。彼は現在、上海復旦大学で勉学に励んでおり、中国語のより一層の進歩が期待されます。

第2位の佐藤奈穂さんは落ち着いた安定感のある朗読が印象的でした。普段は照れ屋で人前でしゃべることが必ずしも得意ではありませんが、いざとなると「やるしかない」という粘り強いところがあるように見受けられました。

第3位に関しては決めるのが難しく、3名の候補者が選ばれ第3位決定戦を再度行いました。その結果、木村將志さんが入賞しました。彼も中国語が大好きで、その発音の正確さには目を瞠めるものがあり、期待すべき人材として注目しています。

今回もレベルの高い内容でしたが、いつかピンインなしの朗読コンテストを実施できればと欲が出ています。さて、参加者数はどうなるでしょう。

(鄭 高咏)

中国語部門(現中)

第15回外国語コンテスト中国語部門(現中)は、2009年11月25日(木)16:40から、課題部門8名、自由部門8名の合計16名が参加して行われました。審査は薛鳴先生と安部の2名で行いましたが、今回は昨年に比べ参加者が増え、特に自由部門は昨年の三倍近い学生がエントリーして激戦となりました。今後もより多くの学生が参加してくれるのを期待しています。また、内容的にもすばらしい発表が多く、毎年このコンテストの審査員をして

いますが、学生諸君の中国語への熱意には本当に感心させられます。

課題部門は、「公鶏接収了教訓(オンドリが得た教訓)」という文章を暗誦してもらいました。内容は、オンドリとアヒルが河辺を散歩していた時、オンドリがアヒルの水かきのある脚をバカにします。これに対してアヒルは、オンドリには翼があるのに高く飛べないではないかと反論します。これを聞いたオンドリは見栄を張って向こう岸まで飛ぼうとしますが、途中で河に落ちてしまい、水かきがあって泳ぎのうまいアヒルに助けられるというお話です。出場者の中には、ちょっとお間抜けなオンドリがアヒルに助けられるシーンをユーモアたっぷりに発表する人もいて、審査をしながらつい笑ってしまいました。厳正な審査の結果、次の3名が入賞しました。

- | | | |
|----|---------|--------|
| 1位 | 09C8112 | 竹田 瞳 |
| 2位 | 09C8141 | 岸田 祐未子 |
| 3位 | 09C8071 | 清水 由貴 |

自由部門は8名の参加で、全体にレベルも高く、正に激戦で、審査員としても順位を付けるのに本当に苦労しました。その中で入賞したのは、次の3名です。

- | | | |
|----|---------|--------|
| 1位 | 07C8022 | 中垣 摩耶 |
| 2位 | 07C8037 | 杉浦 貴史 |
| 3位 | 08C8022 | 下地 江梨奈 |

1位の中垣さんは、「一次体験給我带来的变化(私を変えたある体験)」というテーマで、中国でのインターンシップの体験から、様々な事柄に勇氣を持ってチャレンジすることの大切さを、2位の杉浦君は、「理想是什麼?(理想って何だろう)」というテーマで、中国の農村で出会った一人の農民の理想から自らの理想について考えさせられたという実体験を、3位の下地さんは、「越簡単、越快樂(シンプルほど楽しい)」というテーマで、お金のことなどで悩んだりせず、もっとシンプルな生活を送れば、人生はより楽しくなるという話を、それぞれの確かな中国語及び発音で、表現力豊かに発表しました。(安部 悟)

韓国・朝鮮語部門

第15回外国語コンテスト「韓国・朝鮮語部門」

の本選は2009年11月24日(火) 5 限目に行なわれた。参加者は23名の予定であったが、うち1名は新型インフルエンザのため、やむをえず欠席。審査員は、韓先生および常石が担当。自由作文および課題文朗読により熱戦が繰り広げられた。毎年のことではあるが、二人の審査員は苦労した。ほぼ全員のレベルが高かったため、入賞者を選定するのは困難であったからだ。長引いた審査の結果、入賞者は以下のごとくなった。

- | | | |
|-----|---------|--------|
| 第1位 | 06M3506 | 小笠原 由子 |
| 第2位 | 08J1185 | 宇佐美 昇子 |
| 第3位 | 06J1103 | 村瀬 ひと美 |

1位の小笠原由子さんの自由作文(後ろに掲載)は、大学生活4年間とその4年間にわたる韓国語学習を振り返る内容で、韓国語も大変しっかりしていた。

入選からはもれたものの、08J1133 伊藤泉さん、08M3209 大場陽介君、07M 中村由希恵さん、08M3519 藤木利尚君、07J1226 兼子恵梨さん、08J1138 福井佑香子さん、08M3251 藤安一輝君、08J1020 小川友理恵さん。彼らの発表も大変優れていて、入賞者に負けないものであり、審査員を苦しめた点も書き添えておきたい。

反復になるが、全体として、各人が十分な「練習」をしてきておりレベルの高い、従って充実した「第15回コンテスト」という15周年の節目の発表会を終えることができた。(常石希望)

日本語部門

外国語コンテスト「日本語部門」は、日本語を母語としない者を対象に開かれています。毎年「留学生の見た日本」というテーマで、自らの体験を盛り込み、身近な出来事から意見や考えを述べるのが課題です。

法・経・現中三学部の1年次の留学生は、毎年全員このスピーチに取り組んでいます。60名前後にもなりますから1年生だけの予選を行います。予選は20名ずつに分かれたクラスごとに行い、それぞれ3名の代表者が選ばれ、計9名が本選に進みました。2年次以上の留学生は、予選を経ず、

直接本選に出場できますが、これまで実際に出場した人はなく、1年生だけのイベントのようになっていました。しかし、今回は1名ですが上級生の参加があり、ここに特筆したいと思います。今後も上級生諸君の参加を期待します。

2009年11月24日、10名の参加者が大勢の聴衆の前にスピーチを競い合いました。

審査は、日本語科目担当教員3名(架谷・鈴木・梅田)、学生審査員2名(留学生・日本人学生ともにスピーチ入賞経験者)、聴衆約50名の投票によって行い、以下3名が入賞しました。

- | | | | |
|----|---------|----------------|--------------|
| 1位 | 09M3274 | 楊 銀愛 | 「日本で得た教訓」 |
| 2位 | 09C8206 | 姜 珉廷 (カ・ミンジョン) | 「固定観念を捨てれば…」 |
| 3位 | 09C8195 | 孫 陽 | 「先進国の日本」 |

(敬称略)

「留学生の見た日本」という単一のテーマですが、発表者はそれぞれ独自の着眼点から原稿を書き起こしました。ベットを可愛がる日本人、電車の中の疲れたサラリーマンの居酒屋で陽気に騒ぐ姿とのギャップ、バイト中に優しい言葉をかけてくれるお客さんと外国人とわかったとたんに態度を変えるお客さん…彼らが題材とする日本人は様々ですが、どれも現代日本社会の事実の一部を切り取ったものです。一方、今日本に留学している自分自身の内面にフォーカスしたスピーチも散見され、これも聴衆の共感を呼びました。

スピーチの技術面においては、イントネーション、間の取り方、アイコンタクトなど、聴衆との言語的・非言語的コミュニケーションを各人よく意識していましたが、もっと練習すればもっと良くなるはずだと思われる発表もあり、その点はまだ満点とは言えません。さらなる高みを目指してほしいと思います。

ともあれ、日本語部門に参加できない数多くの日本語を母語とする学生には、ぜひ一人の聴衆として留学生の声を聞きに来てほしいと思います。きっと新しい発見があるはずです。(梅田康子)



外国語コンテスト入賞作



● 英語部門

第1位 My Funny Hobby

08J1323 Tomoya Asai

Hello, everyone! Let me introduce my hobby today. To tell the truth, I'm interested in so many things. And I'll introduce a strange hobby from them today. My hobby is taking photographs. I think that a lot of people say, "Taking photos? It's not strange at all." However, in fact, it is very strange. I always choose very funny things as objects to take pictures of. Those are not flowers, not birds, or not cars. You may be surprised. The object is THE SEWERHOLE COVERS, namely THE MANHOLE COVERS.

Needless to say, it means sewerholes that cover sewers. You might say that it's just a sewerhole cover, but it's not. Actually, it is very deep. I don't mean it has the depth, but I mean it is profound—has a lot of meaning. You may think every sewerhole cover is the same. But surprisingly, there are more than 1,000 kinds of sewerhole covers in Japan. Some sewerhole covers are very fashionable. For example, this is a sewerhole in my town (Picture 1). My town, Gifu, is very famous for *ukai*, catching fish by ducks, so two cormorant feathers are drawn on the sewerhole covers. It's very nice, isn't it? Next, this is a sewerhole cover from Ogaki City, a neighboring city (Picture 2). Ogaki City attractions, that is Sumiyoshi lighthouse and Boat Town Port, are designed in the sewerhole covers. They have so elaborate designs. Finally, please let me introduce a sewerhole cover that attracted me and motivated me to fall into this hobby. That's it! (Picture 3). You can see this in Kurashiki, Okayama Prefecture. It looks very simple, but this is my favorite one. Only a tree is drawn in the cover, but it's very sophisticated. This is one of the examples of "Less is more."

Do you understand my hobby? Thus, each town has its original sewerhole covers. Each cover has a character and charm. Don't you think it is very interesting? You don't look at your feet when you walk, but from today, please keep your eye on sewerhole covers!

Pictures 1 - 3 は省略しました。

● 中国語部門

第1位 一次体验给我带来的变化

07C8022 中垣摩耶

大家好。

我是爱知大学现代中国学部三年级学生，我叫中垣摩耶。

今年暑假，我参加了北京的现地企业实习活动。下面谈一谈在北京的实习收获。

我所实习的公司是一家中国的中小企业。主要业务是销售飞机票。我所在的日本部，只有九名员工，但却是企业的中坚力量。

到任第一天，我就被工作现场的氛围惊呆了。电话接连不断，一手接座机，一手接手机，员工们忙个不停，简直像战场！我事先准备好的自我介绍，根本没派上用场，就被安排到工作岗位上了。到了岗位，发现自己的桌子上没有电话！派遣之前老师曾说，我的主要工作是接日本人的电话。可是……。

一连几天，我的工作就是写文书、确认企业的日语主页。有时也接日本人打来的电话。但是，绝大多数的电话来自中国人，并且多是打到同事那里的。“为什么我的工作台上没有电话？”我有些懊恼，回到宿舍一个人偷偷地流泪。

有一天，一个中国员工问我，“你最近怎么好像没精神？没问题？”我回答说，“没什么问题。”随后他说，“我们的公司最重视跟顾客交流。电话是第一步。来电话，即使再忙都要马上接。”

我开始意识到自己的问题！以自己汉语不好，桌子上没电话，自己是进修生为理由，不及时接电话，怠慢了工作！公司视自己为正式员工，而自己却没有意识到，为此感到十分惭愧。

说话时，一台电话响了，我连忙去接。“喂，你好，这里是日本部。”当然对方说的是汉语，并且说得很快，我听不懂。正想转给同事接，对方突然说起日语。之后得知，这位顾客是一位会说日语的中国老客户。如果自己去不去接这个电话，怎么会知道这位顾客能说日语？。

从这一天起，不管哪个桌子上的电话响，我都马上去接。并且用日语，用不流利的汉语，完成了三项预定发售机票的任务。同时，还积极主动给自己找活干。

北京两周的实习，锻炼了自己。使我充分认识到，什么事情都不要轻言放弃，要勇于挑战。现在正在找工作，对我来说这是未知的世界。但现在的我，不再畏惧任何可能出现的困难，有信心勇于面对一切！

● 韓国・朝鮮語部門

第1位 나의 大學生活과 韓國語

06M3506 小笠原由子

경영학부 4학년 오가사와라 유코예요.
잘 부탁드립니다.

여러분은 지금 어떤 대학교 생활을 보내고 있어요?

저는 올해로 대학교 생활 네번째 겨울을 맞이 했어요.

지금 생각하면 사년이란 눈 깜짝할 사이이고, 많은 추억이나 소중한 친구가 생긴 반면, 졸업해야 하는 것이 조금 섭섭해요.

한국어와의 만남은 물론 프네이시 선생님의 한국어 수업이었어요.

프네이시 선생님이 한국에 관해 열심히 말씀하시는 것을 듣고, 한국어를 술술 말할 수 있게 돼서 한국에 유학하는 것이 목표가 됐어요.

실제로는 장기 유학을 경험할 수 없었지만, 1 개월이란 짧은 기간이지만 한국의 대학교에 다닌 것, 소중한 친구가 생긴 것, 한국이 더욱더욱 좋아진 것, 잊을 수 없는 추억이 많이 생겼어요.

한 선생님과 한국어 수업에서는 더욱 발전적인 한국어를 배울 수가 있었어요.

회화하는 즐거움이나 말 못하는 분함, 한국의 전통적인 게임에 빠르말, 혼자서는 못 하는 여러가지를 경험할 수 있었어요.

수업의 중간중간에 한국에 관한 이야기를 듣기도 하고, 한 선생님의 가족 이야기를 듣기도 하고 즐거운 이야기를 많이 할 수 있었어요.

또한 올해는 나에게 있어 보람있는 일년이 됐어요.

특히 6월에 제 모교 교육 실습에 간 것이 가장 인상에 남아 있어요.

실습기간 중은 과제의 많음에 고민하면서 잠도 아껴 가면서 수업안을 만들었어요.

실습 기록을 쓰면서 부활동 지도를 하면서 바쁜 매일을 보낼 수 있었어요.

실습은 아주 힘들었지만 학생들은 아주 귀여웠고, 선생님들께는 바쁘면서도 열심히 지도해 주셔서 감사의 말 밖에 없었어요.

여러분은 올해 어떤 추억을 만들었어요?

저는 한국어가 아주 좋아요. 여기에 있는 누구 보다도 한국어를 좋아한다고 생각해요.

그러나 졸업하면 한국어를 접하는 기회는

적어지겠죠.

하지만 제가 배운 4년은 평생 안 잊을 거예요.

마지막으로 한국어를 4년동안 학습할 수 있었고, 즐거운 대학교 생활을 보낼 수 있었던 것은 프네이시 선생님을 비롯해 많은 선생님의 덕분이라고 생각하고 있어요.

이 장소를 빌려 감사의 말을 전하겠습니다.

감사합니다.

● 日本語部門

第1位 日本で得た教訓

09M3274 楊 銀愛

皆さんはヨーロッパ人という何を一番先に思い浮かべますか。金髪で青い目、白い顔が一番強いイメージではないでしょうか。黒髪で茶色の目の私たちとははっきりと異なる外見です。でもみなさんは自分がアジア人であることで侮辱されたことがありますか。

私は運が悪いと言うか、不幸にもそんな目にあってしまいました。

その日、学校が終わって自転車で家に帰るところでした。道路の横に大きい柿の木があり、上には拳ぐらいの柿の実がずずなりになっていました。寒いところで有名な中国の東北から来た私は、柿の木を初めて見たので、自然とその下に立ち止まってぼかと眺めていました。

そのとき、どこから出て来たのか、おじいさんがそんな私を見つけて「おい、お前何だ!」

びっくりして見たら機嫌が悪そうなおじいさんがいて、私は「あ、あ、なんでもないです。」と言いながらそこから立ち去ろうとすると「お前、外人だろう、中国? 韓国? これ取っちゃ駄目だよ、最近外人は本当に... 駄目だよ!」と私の心に傷をつけました。まるで私がその柿を取ろうとしたみたいに。「違います、違います。」と首と手を振りながら言いましたが、まだまだ足りない日本語のせいか、おじいさんはそんな私を無視して行ってしまいました。

瞬間、耐えられない悲しみと悔しさで、急いで自転車に乗りましたが、風と共にとめどなく涙が流れていきました。

でも、この話はそれで終わりではなかったんで

す。何日か経ち、いつもと同じ家に帰るところで思わず自転車を止めてしまいました。なぜなら、あのおじいさんがまたあの柿の木のところにいるからです。そして、もう一人の人に「これ食べてみて、すごくあまいよ。外国にきて苦労だね。」と言いながらその大きくて、おいしそうな柿を二つ取って手に渡しました。想像もできなかった世界一優しい顔で。前とは全然違う態度で驚きました。しかし、私が見たその柿を渡した相手は金髪で青い目のヨーロッパ人だったんです。「こういうことか。」私はやっと前日のことを完全に「納得」し、全てをまとめて「人種差別」という寂しくて、冷たい結論を出しました。

人種差別をはじめ、様々な差別は一人の人の心に忘れられない傷を残します。これが私が日本で得た教訓です。意識的、無意識的にかかわらず、差別というものは私たちの心に住みついています。こういう差別を無くしていく上で、自分自身の行動を振り返ることが必要だと思いますが、それだけでなく、皮膚の色や血という概念に基づいて、人々を分類するという考えが、社会的、歴史的に創られたものであるということを明らかにしていくことが、重要だと思います。

編集後記

初夏の風と共に23号をお届けします。

今号は、新しく着任された先生方に執筆をお願いしました。今号を読んでおけば、初めてお会いしたときにも話題がすぐ浮かび、きっと緊張せずにお話できるでしょう。質問したいことがあったらどんどん質問しましょう。きっと先生も待っているはずです。

それから、今号には2009年度外国語コンテストの報告と優勝作も載っています。どの語系も接戦だったようですが、参加者の減った語系もあるようです。「宝くじは買わないと当たらない」と言います。コンテストは出場しないと優勝できない。秋学期までまだ十分準備の時間があります。奮って参加しましょう。勇気を持って！まずは、学内コンテストでスピコンへの第一歩を踏み出しましょう。

さて、今号は全35頁という久々のボリュームとなり、読み応えも十分あったのではないかと思います。あらためて目次を見ますと、アメリカに関する記事が3つありましたが、所変われば...で、オレゴン、ミズーリ、ネバダのまったく異なった記事内容に、アメリカの広さを思い知り、好奇心をそそられます。JASSO の統計では、年間約 8 万人が海外留学していて、愛大の海外セミナーのような大学間の協定留学の場合、派遣先 1 位はダントツでアメリカです。しかし、2 位はオーストラリア、イギリス、中国、カナダが毎年入れ替わるほど競い合っており、それを韓国が追いかけています。愛大のセミナーも今挙げた国すべてで実施してきました。

セミナーは、単位を取得しつつ見聞を広められる点がいのですが、もちろん、留学以外の形で海外に行くのも「アリ」です。例えば、今開催中の上海万博に愛大生も通訳ボランティアとして参加する予定です。その中には愛大に留学して、愛大生として母国に戻って活動する留学生もいます。さあ、進みましょう、何度でもボーダーを越えて。(U)

愛知大学言語学談話会

第35回

公開講座「言語」2010 後期プログラム

【会場】愛知大学車道校舎本館13階第3会議室
都合により会場を変更する場合がありますので、開催当日、本館入口等の案内によりご確認ください。

【時間】午後2時半～4時半

2010年

9月11日(土)

「レチフ・ド・ラ・ブルトヌの言葉遊び」

田川光昭(愛知大学経営学部教授)

10月2日(土)

「コトバの学としてのイスラーム神学

—スポーツからカラームへ—

鈴木規夫(愛知大学国際コミュニケーション学部教授)

11月6日(土)

「秋の糸を吐く青虫」

矢田博士(愛知大学経営学部教授)

12月4日(土)

「談話構成の要因—情報構造—」

北尾泰幸(愛知大学法学部准教授)

2011年

1月8日(土)

「ことばとジェスチャーの繰り返しを示す言語文化的指向性」

片岡邦好(愛知大学文学部教授)

聴講無料・事前申込不要



上海万博のマスコット「海宝」と記念写真